

令和2年度 第5回
日野市教育委員会定例会議事録要旨

令和2年（2020年）8月13日

日野市教育委員会

令和2年度第5回日野市教育委員会定例会

開催日時 令和2年(2020年)8月13日(木)
14時00分～18時35分

開催場所 505会議室

出席委員 教 育 長 米田 裕治 委 員 高木 健夫
委 員 西田 敦子 委 員 真野 広
委 員 東 桜子

欠席委員 なし

議事録署名委員 委 員 東 桜子

事務局出席者 教 育 部 長 村田 幹生 教育部参事 高橋 登
教育部参事 谷川 拓也 教育部参事 志村 理恵
(兼・総務課次長)
庶務課長 伊藤 浩一 学 校 課 長 久保田 博之
統括指導主事 田村 孝夫

傍聴者 28人

書記 庶務課庶務係長 馬場 康二
庶務課主事 大矢 千尋

議事内容 別紙のとおり

この議事録は事実と相違ないことを認め、ここに署名します。

議事録署名
委 員

東 桜子

議事録署名
教 育 長

米田裕治

議事内容

議案

- 第 2 3 号 日野市立中学校教科用図書の採択について
- 第 2 4 号 日野市立小学校教科用図書の採択について
- 第 2 5 号 日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について
- 第 2 6 号 東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について
- 第 2 7 号 教育委員会職員の分限休職の専決処分について
- 第 2 8 号 教職員の内申の専決処分について
- 第 2 9 号 教育委員会職員の分限休職について

協議事項

- 第 3 号 日野市立中学校教科用図書の選定について

(議事の要旨)

開始 14時00分

[米田教育長]

ただいまから、令和2年度第5回教育委員会定例会を開会いたします。

議事に入ります前に、本日は傍聴希望者がいらっしゃいますので、傍聴を許可したいと思いますますが、異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認め、傍聴を許可します。

(傍聴人入室)

[米田教育長]

本日の議事録署名は、東委員にお願いいたします。

本日の案件は、議案7件、協議事項1件です。

会議の進め方ですが、まず協議事項第3号を協議し、次に、議案第23号、次に、議案第24号から順次、審議を進めていきたいと思っております。また、議案第27号、及び議案第28号、議案第29号は、公開しない会議とし、最後に審議したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認めます。まず協議事項第3号を協議し、次に議案第23号、次に議案第24号から順次、審議を進めていきたいと思っております。また、会議規則第10条により、議案第27号及び議案第28号、議案第29号は公開しない会議とし、審議をします。

それでは、議事に入ります。協議事項第3号・日野市立中学校教科用図書の選定について、事務局より説明をお願いいたします。

○協議事項第3号 日野市立中学校教科用図書の選定について

[谷川教育部参事]

教育部参事でございます。

それでは、私より協議事項第3号について、ご説明をさせていただきます。議案書49ページ、議案事項第3号・日野市立中学校教科用図書の選定について、ご協議をお願いいたします。

初めに、今年度の採択についてご説明いたします。今年度採択された教科書は、令和3年度から4年間、令和6年度まで使用する中学校教科用図書を採択するものでございます。今回の採択事務を進めるに当たり、令和2年3月12日の教育委員会定例会において、日野市立学校教科用図書の採択要綱を定めるところでございます。

また、令和2年3月27日付で文部科学省初等中等局から、各都道府県教育長、教育委員会宛に教科書採択に関わる3種の通知がございました。通知は、教科書採択における公平確保の徹底について、教科書採択の公平確保について、令和3年度使用教科書の採択事

務処理についてでございます。日野市教育委員会では、日野市立学校教科用図書の採択要綱にのっとり、また、この文部科学省からの通知にも沿う形で調査研究を行いました。調査項目を5つの観点とし、1、学習指導要領との関連、2、編集上の工夫、3、地域との関連、4、構成単元の配列、問題解決、課題の発見、5、表記表現から、全教科書の調査研究を行ってまいりました。また、今回の調査に関しましては、指導に当たる先生方の意見を酌み取りやすいように特記事項の欄を設けております。調査研究は、これまでの教科書採択と同様に、各学校、各教科委員会での調査研究、そして審議会での検討、審議、さらに東京都教育委員会が作成した中学校教科書調査研究資料や、実際の教科書に直接当たるといった調査研究と手順を踏んだ上で、本日の採択を迎えております。

次に、今回の採択事務の経過についてご説明をいたします。日野市立学校教科用図書の採択要綱に基づき、5月に各中学校で教科用図書の調査研究、6月に教科委員会で調査を行うこととしておりました。しかし、5月に中学校から報告書が提出された段階で、事務局が配付した調査用紙に誤りがあったことに気づきました。

調査報告書につきましては、昨年度、学習指導要領が告示されて初めて、小学校教科書採択において調査研究に当たった先生から、観点の見直しについてご意見を頂きました。そこで、中学校の教科書採択に向けて観点を見直し、調査研究を行うこととし、調査研究書の様式を改定しておりました。

しかしながら、今年度、中学校の教科書採択を進めるに当たって、各学校へ調査を依頼する際、誤って前回の調査様式を送付しておりました。そこで、学校に対してお詫びをするとともに、改めて新しい観点で調査研究を進めていただくよう学校に依頼いたしました。このような経緯から調査研究の日程の見直しを行いました。6月12日から22日までの2週間を、改めて各学校での調査研究期間といたしました。続く6月23日から7月7日までの期間で、教科ごとに設けられる教科委員会で調査研究を進めておりました。

この教科委員会は、委員長を含めた5名で構成され、各学校からの調査研究報告書を基に調査研究を行いました。教員の皆様には、限られた時間の中で、報告書を作成していただいたことに感謝しております。

続きまして、7月8日、10日、13日に教科用図書採択審議会を行いました。この審議会は、校長2名、副校長2名、そして保護者6名の計10名によって構成されております。この審議会では、各教科委員長からそれぞれの教科ごとに調査研究した内容の報告があり、各社の教科用図書を実際に当たり、確認をしたり、質問したりするなどの審議が行われました。

そして、教育委員会は7月20日に審議会から答申を頂いています。教育委員は7月21日、27日、30日の計3日間、各教科の委員長に出席いただき、審議会の答申書に基づいた説明を頂きました。続いて、8月3日、5日、8日、10日、12日の計5日間にわたって、教育委員は全ての教科用図書について調査研究を行いました。

調査研究に当たっては、審議会答申書及び東京都教育委員会が作成した中学校用教科書調査研究資料と、教科書で内容の確認を行いました。これは本日までの採択事務の経過でございます。なお、各社の教科用図書は、6月4日から30日まで中央図書館、高幡図書館、中央公民館の3か所で閲覧できるようになっておりました。そして、この3か所には、

教科用図書や点字について、お気づきの点をご記入いただくアンケート用紙を置き、期日までに寄せられたご意見、ご感想等は36件になります。これらのご意見、ご感想等の全てを教育委員は読んでおります。本日の協議事項といたしましては、各教科の教科用図書についてご協議をいただき、それぞれ1社を選択候補として選定していただきたいと思っております。以上で説明は終わります。ご協議のほど、よろしく願いいたします。

[米田教育長]

事務局からの説明が終了いたしました。

教育委員会は、7月20日に日野市立学校教科用図書採択審議会より答申を受けました。その答申書の内容を踏まえ、東京都教育委員会の教科書調査研究資料も参考にしながら、実際の教科書を基に調査研究を行ってまいりました。それらを通して、本日までにそれぞれの委員がどの教科用図書を採択の候補とすべきか判断をされたと思っております。

選定の方法について、お諮りいたします。ただいまからお配りします用紙に、選定の候補としたい発行者を選んでいただき、候補とされた教科用図書について協議を進めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

[高木委員]

私から提案がございます。今、教育長がおっしゃったように、本日を迎えるまでに、私どもとしましては全ての教科書について、いろいろな角度から調査研究を行ってきたところです。しかしながら、どの教科書もそれぞれの特徴や良さを持っていて、正直なところ、なかなか甲乙つけがたく、1者だけ選ぶのは難しいと感じるところもあるかと思っております。

そこで、選定するに当たりまして、従来どおり、1人の持ち点を2点とし、1者に2点をまとめて入れることも、あるいは2者に1点ずつ分けて入れることもよいといった方法をとって、点数を累計して候補教科書を決めてはどうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

[米田教育長]

選定の方法について、ただいま高木委員から提案がございましたけれども、皆さん、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議がないようですので、各委員の持ち点を2点として選定を行ってまいります。

では、事務局は各委員に用紙を配付してください。そして、各委員の方は記入をお願いいたします。記入が終わりましたら、速やかに集計してください。

(用紙配付、記入)

[米田教育長]

ただいま、事務局では集計の作業をしておりますけれども、この間に、これから各教科の協議に入っていくのですけれども、その前に、私たちは未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)、それから、新学習指導要領に基づいて教科書採択を行うわけですけれども、本日までに教科書選定に当たって全体的に感じられたこととか、改めて大切にしたいと考えられたことが各委員にあると思っております。どうぞお一人ずつ、そのことについてお話しいただければと思っております。よろしく願いいたします。

[真野委員]

私からお話しさせていただきます。今回、教科書の選定に当たりまして、私も改めて日野市のつくりました、第3次日野市学校教育基本構想を読み直しました。その上で、学ぶ視点で大切にしたいなと思いましたが3点ほどを挙げたいと思います。1点目は、学びの出発点はやはり身近な課題や疑問からという視点です。また、2点目は、生徒一人一人が自ら学び、お互いから学ぶという視点です。それから3点目、やはりわくわく感を持って学習できる。こういう視点を、私自身、大切にしつつ選定作業に当たらせていただきました。

以上です。

[高木委員]

今回の教科採択に当たりまして、私自身、どんな学び、どんな授業をしていくのかという視点で、思うところの一端を今日は述べさせていただきますと思います。本来、児童や生徒にとって、将来、学校を出たら、社会的にどのような生活をするのか、世の中に貢献をするのかという、職業人や社会人としての自画像を描きながら、現時点での立ち位置での学びの意味や、学習の意義、必要性を考えるべきであると思います。

しかしながら、多くの場合、このような過程や考察がないままに学びを強いられ、学ぶことや学習内容に気持ちが向かずには評価されたり、単なる受験での合格のテクニックとしての学びになってしまうので、学ぶことが楽しくなくなり、学ぶことの意義や必要性を見いだせずに苦行になってしまうのではと、自分の過去の経験を振り返りながら改めて思います。

将来の自画像を描きつつ、できる限り可能な範囲において、自分の趣味や好奇心に基づき学ぶことができ、自分なりの発見や好奇心を満たしたり、満足感を得ること、場合によっては、失敗したりとの体験、経験は、特に若い児童・生徒にとっては、長い人生を考えると非常に重要と考えます。

特に学校では、何かができたと成功体験も大事ですが、いろいろと失敗や誤りをして、目標を達成するために再挑戦や再々挑戦をみんなが許してくれる場、認めてくれる場としての役割も大きいと考えております。そのような学びや学校の授業になれたらと念じながら、今回の各教科の教科書を選定させていただきました。

以上です。

[東委員]

私は教育委員になり初めての夏を迎えましたので、教科書選定に関わるのが初めてでした。正直申しましてすごく大変でした。物凄い時間をかけてみなさんが協議されているということを初めて目の当たりにして、委員みなさんの熱意に感動しました。教科委員会など関わった先生方や教育委員会事務局にも感謝申し上げたいと思います。

私がこの短期間で感じてきたことをお話しさせていただきたいと思います。私なりに時間がない中で最大限努力をして読み込みをし、教科書に対する認識が大きく変わりました。今まで常々私は「学校の学びは教科書だけではない」とよく言っていました。友達との関わりなど学校生活の中にこそ学びがあるということを常々言ってきたのですが、今回隅々まで読ませていただいて、教科書はものすごく大事なものだ、ということが改めてよく分かりました。私自身が子どものころに習っていた時代の教科のイメージとは違って、どの教科も生活や社会につながって役立つということがすべてにおいて書かれていま

す。今の学びが日常で地域で将来社会でとイメージできるよう工夫されています。教科書こそ先生と子どもたちをつなぐ学びの原点だと思いました。

教科書を読んでいて作り手さんたちの思いもものすごく感じることができました。子どもたちの未来をつくっていくために、又、忙しい先生たちのサポートをするために一生懸命素晴らしいお仕事をしてくださっているのだなということをととても感じることができました。ですので、私なりに改めて知り感じた素晴らしい教科書を、私はやはり使ってもらいたい、委員で莫大な時間をかけて協議して決めた教科書を現場で学校で存分に使ってもらいたい、そう思いました。現場の先生の中には、教科書を使わないで教えるのが格好いいとか、教科書しか使わないのは恥ずかしいとか、そのような風潮があると聞いたことがあります。オリジナルの教材を使うことは発展的で良いことだと思いますが、まずは教科書から、教科書を隅々まで活用してからだと思いました。教科書を先生が教える、教え込むのではなく、教科書を元にして、先生方自身が個性を生かして、子どもたちから何かを引き出し、子ども達の興味関心をどう引き付けさせ、子ども自身の学びのエンジンに火をつけるのか。授業力など固い言葉ではなく、伴走者として、子どもたちと一緒に教科書を使って授業を創って行って欲しいと思いました。

教科書はヒントがちりばめられた宝の地図です。学びの航海に出る時に、どうコントロールしていくかということこそが大事で、そこが日野市で大事にしている「羅針盤の力」だと思いました。これからのわくわくの学びの旅を先生と子どもたちが自分自らで創っていく、そこには一緒に考えてくれるそっと寄り添ってくれる先生の存在が大切だと思いました。日野市の教育基本構想で大事にしている自らの羅針盤を自らが育てていく。みんなが育てて自分も育てて。というような観点を大事にして教科書選定をしました。

以上です。

[西田委員]

私は、採択用の教科書を読むときに、特に次の4つを大切にしました。1つは、この教科書全体には人間愛が貫かれているかどうかということです。2つは、教科書から真実が学べるかどうか。教科書は真実を伝えているかどうかということです。3つは、この教科書を使ったら、どの生徒も自分らしく学び、生涯にわたって学び続ける力を得ることができるかどうかということです。4つは、この教科書を使ったら、生徒は楽しく学び、生き生きした活動が生まれてくるかどうかということです。このことを大切にいたしました。

以上です。

[米田教育長]

私は、たくさんの本物に出会ってほしいと思いました。本物に感動して、本物にわくわくして、自分の中にある、その子にしかない本物を大きく育てて行ってほしいと思いました。自分を駆り立てていく、自分にしかない原動力に出会ってほしいという、そんな願いです。たくさんの絵画や造形、音楽や文学、スポーツ、科学、技術、文化、世の中に出会って、その本物に出会って、感動して、共感して、対話をみんなと重ねて、世界を広げて自分の羅針盤を育てて行ってほしいと思いました。地球を包み込む本物を育てて行ってほしいという、そんな願いです。

学びは楽しくて、時には遊びが広がって、新しい発見や感動にみんなが包まれていくも

のだと思います。そして、学びは何よりも一人一人の人生のためのもの、自立のためのものだと思います。子供も、大人も、学びを自分にとって意味あるものにして、学びを全ての命にとって意味あるものにしていきたいと思います。これをみんなの力でつくってあげればと思います。

それでは、国語から協議を始めようと思いますが、よろしいでしょうか。

国語の集計結果が出ました。光村図書出版が10点となりました。では、各委員さんからご意見を頂きます。順番は今の順番でよろしいでしょうか。では、お願いいたします。

[真野委員]

私は、国語につきましては、光村図書出版がいいと思いました。選定の理由につきまして、3点ほど挙げさせていただきたいと思います。まず1点目ですが、学習指導要領にある科学的、論理的に物事を捉え、考察し、視野を広げる、公正かつ適切に判断する能力や、創造的精神を養うという観点からです。

1例ではありますが、3年の教材に「故郷」という教材がございます。小説を批評する、また、批判的に読むとの視点を捉え、読みを深め、自分の考えを持ち、さらに友達の批評と自分の捉え方との共通点、あるいは相違点などを基に考えを深める活動ができるよう、組み立てられています。2つ目の例として、3年の教材ですが、「人工知能と未来」という教材があります。人間と人工知能の関わりについて述べた2つの文章について、その根拠を見据えながら批判的に読み、自分の考えを持った上でグループで討議をし、考えを広げる組立てとなっており、まさに生徒一人一人が自ら学び、お互いから学ぶことができる教材となっています。これが1点目です。

2点目は、学習指導要領にある古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通し、古典の世界を楽しむという観点です。これも1例を挙げますと、3年の教材に、三大和歌集のところで、和歌の世界を写真や原文を通して紹介、原文の横に現代語訳を対で掲載、またQRコードで原文の音読を紹介するなど、音読を通し古典の世界を楽しむことに重きを置いた組立てとなっています。

最後に3点目ですが、広がる読書コーナーというところでは、批判的に読むことを学んだ後で、関連する書籍を写真で紹介しているため、自ら学んだ新たな視点を実践で生かそう、そういう思いで読書に挑戦してみる。このことが自らのわくわく感を持って学びを広げていくことができるのではないのでしょうか。

以上が、選定理由となります。

[高木委員]

私も光村図書出版ということですが、その理由についてなんですけど、1つには、各教材が精選されたものが多く、基礎的・基本的な資質能力が身につくことが期待できること、2つ目として、各教材の後にあります「学習」での問いについては、論理性を身につけるためのものが数多く、工夫されていること。3点目として、教科書の中に1年生から3年生までですが、「季節のしおり」という、季節を感じさせるコラムが設けられているなど、生徒の感性を磨く仕組みが織り込まれていること。4点目についてですけども、学習を通して身につける力のポイントを具体的に示す「学習の窓」等が充実していること。以上であります。

[東委員]

私は、光村図書出版がよいと思いました。まず、1点目には、光村の新たな時代の価値を創造できるようにというテーマの中で、3年生の教材の中で「誰かの代わりに」という鷺田清一さんの作品がありました。とても難しい作品でもあるのですが、その中に自分とは何かという、自分が存在することの意味への問いについて、自分の中ばかりを見ていては、その答えを探し出すことはできません。その答えは、ほかの人たちとの関わりの中でこそ具体的に浮かび上がってくるものですという記述がありました。

ほかの人たちと関わり合い、弱さを補い合うからこそ、人は倒れずにいられます。そして、自分に存在することの意味を感じながら生きることができます。自分の弱さを知る人は自分が誰かに支えられていることをよく知っているということですという内容のものです。日頃大切にしてほしい力の1つに、先ほども申し上げた羅針盤の力がありますが、困難にぶつかったときに自分で舵取りできる力が、友達の中で、対話の中で、話し合い活動の中で身につくよい教材だと思いました。

2点目です。優れた作品の教材だけではなく、作品の最後には学びを広げるための学習のページがあり、学習の過程が分かりやすく示されていました。「学習の窓」が秀逸で、様々な観点を与えてくれることにより、作品を通して深い学びへと誘う工夫がされています。

3点目です。読書活動への誘いも多数あり、各教材ページの下に関連するお勧め本が表紙つきで紹介されていたり、読書案内、本の世界を広げようでは、2、3ページにもわたり、テーマごとでまとめて紹介されていたり、近年、「星の王子さま」の新訳など多数出たことを取り上げ、翻訳者の違いでこんなにもニュアンスが変わることを比較して紹介してあるページもあり、実際に本を手にとって見たくなる仕掛けが教科書中にあることがすばらしいと思いました。

まさに、今年策定した第4次日野市子供読書活動推進計画、「本のむこうに きっとみつける それぞれの未来」を進める日野市の教育にぴったりの教科書だと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も光村図書出版がよいと考えました。初めに、各学年とも、ページをめくった最初の詩がとてもすばらしいと思いました。繰り返し目で読み、声に出して読んでほしいと思いました。誰かに読んであげるのもよいと思いました。

次に、学習指導要領では語彙指導の改善充実が求められています。教科書全体を通して求められる語彙に関する学習が充実していると思いました。例えば、1学年では文学作品の「少年の日の思い出」の目標の第一に、文章の中での語句の意味に注意して読み、語彙を豊かにするということが挙げられています。また、言葉を集めようのページでは、言葉を集め、その中から気持ちや状況にぴったりの表現を探す練習をしています。また、「言葉を広げる」コーナーでは、教材の中の言葉を使って和語に置き換えたり、短文をつくらせたりしています。巻末には語彙表が載っています。その他、様々な語彙に関する指導がありまして、大変語彙に関する学習が充実していると思いました。

次に、学習指導要領では、「我が国の言語文化に関する指導の改善、充実」が求められています。そこで、「伝統的な言語文化」を見ますと大変丁寧につくられていて、古典になじ

みのない生徒にも分かりやすく、心に響く教材が多いと思いました。例えば、3学年の「和歌の世界」の単元に万葉集と、古今和歌集と新和歌集が載っています。それぞれの写本や当時の姿を描いた美しい絵が載っており、和歌がつけられた時代の様子を思い浮かべることができます。

また、和歌には、歌に添えて歌の意味が分かりやすい言葉で書かれています。一人でも意味を理解しながら声に出して読むこともでき、古典和歌にも親しみが持てるようにつくられていると思いました。

また、万葉集には、日野市を流れている多摩川を題材にした東歌が載っています。日野の生徒が読むのにふさわしい歌が載っていると、うれしく思いました。

読書のコーナーでは、今もお話がありましたが、サン・テグジュペリの「星の王子さま」を二人の翻訳者による文章を読み比べて、翻訳作品の面白さが分かるようになっています。単なる紹介に終わらない工夫がとてもよいと思いました。

以上です。

[米田教育長]

私も光村図書出版がよいと思いました。各委員さんが既にいろいろな観点からお話をしていますので、重なることについては省略させていただきたいと思います。光村図書出版は、各単元の学習活動において、捉える、読み深める、考えを持つという、そういう展開をいたします。例えば1年生のヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」では、読み深めたことを基に僕以外の人物を語り手にして、作品の一場面を書いてみようという前置きをした後に、書き換えた文章を読み合い、作品や人物の特徴について気づいたことを発表し合おうと。

このことによって、それぞれがこの作品の中の人物の心情や意図が別の角度から見えてきて、作品を味わうことができ、そして、それを自分の言葉で表現する、そういう活動が展開されています。こういった捉える、読み深める、考えを持つという、その活動において、まず読みが深くなる、その読みの深さから、自分の表現活動が自分の言葉で育っていくと、そういう教科書だと思いました。

それから、人間と人工知能との関わりについてという単元では、2人の論文を読みます。3年です。羽生善治さんの「人工知能との未来」、それからもう一つ、松原仁さんの「人間と人工知能の創造性」、この2つを読んだ後に、これからの時代に大切なことを考えようということで、いわゆる1つのテーマについて2つの論文をその根拠に基づいて読み解き、考え、そして話を始める。我が事として説得力を高めて表現してみようという、このように重層的にいろいろな考えが展開をされる。そういった意味で、論理的な活動についてもこういった構成をしている。私は、こういう点から光村図書出版がいいと思いました。

あと、併せて、委員さんから紹介がありました「学習の窓」、それは話すこと、聞くこと、それから書くこと、そのための基本的な観点をまとめて書いてあるんです。それが巻末に、その学年ごとにきちんと一覧となって出ておりました、改めてこうやって見ると、そのことについて振り返りができます。

それから、もう一つは、情報整理の方法につきましても、巻末のほうに一覧表を設けておりました、そういった情報整理の中から発想を広げたり、情報を整理したりして日常生

活の中で生かしていくということが出来る、そんな教科書だと思いました。

私からは以上です。

それでは、委員さん、発言漏れはございますか、よろしいですか。なければ、ご意見はこれにて終結いたします。

国語は、集計の結果、光村図書出版が10点でございました。光村図書出版を採択確保として選定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、国語については、光村図書出版を採択候補といたします。

それでは、次は書写でございます。書写については、教育出版が10点となりました。各委員さんからご意見をいただきたいと思っております。

[真野委員]

私は教育出版がよいと思っております。選定理由を2点挙げさせていただきます。1点目は、学習指導要領にある、目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書くことという視点です。楷書や行書の生まれた背景、歴史、実際に生活の中で使われている写真などを通し、自分事として比較するなど、学びを深めることができる。また、行書のお手本と書き方の解説が見開きで完結しており、使いやすい観点です。

2点目は、学習指導要領にある書写の能力を学習や生活に役立てるという視点です。1例として、植物の観察レポートの作成、学校行事での活用、お勧めの本の帯やポップを作成する、新聞を作成するなどの事例紹介を通し、学校生活に結びつける視点を掲載しています。何のために学ぶのかを深めることができ、学びのわくわく感につながると思いました。

以上です。

[高木委員]

私も教育出版がよいと思っておりました。1つには、教科書の中に中学生が多く登場し、生徒が親しみやすい構成になっていること。2つ目として、楷書や行書の筆遣いや字のバランスなど、丁寧な手本が示されていて分かりやすいこと、3つ目として、「学習を生かして書く」、「学校生活に生かして書く」の単元では、教科横断的な学習活動や日常生活に活用する例が多く示され、充実していること。4点目として、各種のコラム欄や「書式の教室」での資料関係が充実していること。

以上です。

[東委員]

私は教育出版がよいと思っております。1点目は、書写の中で一番時間を使う書道の気をつけなければならない筆遣いやポイントが分かりやすく表記されている点では、教育出版が一番多角的に掲載していると思っておりました。特に行書などは、楷書と比べて筆順が変化するなど、一つ一つ丁寧に、見開きページ左右で比べながら確認することができるところが、分かりやすくてよいと感じました。

2点目は、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書こうでは、今まではなかなか書かなくなり、日常的に教えてもらえることも少なくなっ

いるお手紙やはがきの書き方、実用的である会合に招待された際の往復はがきの出し方、ご祝儀袋、エアメール、入学願書や志望理由などの書き方などの掲載も、種類が一番多かった点も、今後の生活に役立つよい教科書だと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も教育出版がよいと思いました。書写を通してどんな力をつけていくのかを初めに図で示してあり、学年の初めには、それぞれの学年でどんな学習をするのか記述されています。3年間に身に着ける力を見通すことができるよいページだと思いました。

2つ目は、毛筆の基本を非常に丁寧に扱っていると思いました。基本の姿勢、用具の置き方、毛筆や鉛筆の持ち方、筆圧、墨のすり方などの、基本を小学校で学んだことを踏まえて、さらに丁寧に押さえ直しています。

また、筆遣いと字形については最後まで丁寧に扱っています。例えば、手本となる文字に中心線と補助線が引かれています。筆遣いは朱で分かりやすく示しています。特に新しく学ぶ行書については丁寧に扱っていると思いました。

さらに、扱いやすくつくられている点についてです。例えば見開きの右側に手本の文字があり、左側には「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」のコーナーがあり、学習の内容が掲載されていて、とても分かりやすいです。

また、書写の学習で身に着けた力を学校生活や日常で生かす場面が様々紹介されています。文字を実践に生かす楽しさがよく分かり、実際の行動に結びつくことができると思いました。また、理科の植物観察のレポートを書くときの留意点なども載っていて、他教科との連携もできる教科書だと思いました。

以上です。

[米田教育長]

私も教育出版がよいと思いました。まず、筆遣いの基本がきちっと丁寧に押さえられているということです。それから、学習の1時間、1時間の目標がしっかりと明示されていて、そして、そこで得た力が学校生活の中の日常に生かされていく展開となっている教科書でした。

それから、コラムも充実していて、多様な表現による文字と出会うことができるなど、教育出版はよいと考えました。

以上です。

発言漏れや追加はいかがですか。よろしいですか。では、なければ、意見はこれにて終結をいたします。

書写は、集計の結果、教育出版が10点でございました。教育出版を採択候補として選定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、書写については教育出版を採択候補といたします。

では、次に社会の地理的分野でございませう。社会の地理的分野につきましては、帝国書院が10点となりました。各委員さんからご意見を頂きたいと思ひます。

[真野委員]

私は帝国書院がよいと思いました。選定理由を3点ほど挙げさせていただきます。まず1点目です。学習指導要領にこのようにあります。要約ではありますが、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察し、説明、議論する力という視点です。

1例を挙げたいと思います。日本の諸地域を学ぶ教材——ここでは九州地方を例に挙げますと、最初に九州地方の鳥瞰図があります。各地の自然環境や生活文化、そして、産業との関係性に気づくことができます。また、小学校で学んだことを、その図を通して振り返ることもできます。

その次に、特徴ある写真を掲載。それが地図上でどの位置にあるのかを確認することができます。その上で、各地の自然環境や生活文化、産業など、細かく学び、最後に振り返るという流れになっており、多面的・多角的に学びやすい教材になっています。特に、最初の鳥瞰図を通し、自ら気づき、疑問点が生まれ、その問いが学びを深めてくれるのではないかと思います。

2点目です。学習指導要領にある日本の諸地域の課題、その課題の追求や、解決する活動を学校の所在地を含む地域の学習と結びつけて扱うという視点です。教科書の第4部に地域の在り方というところでは、世界の諸地域、日本の諸地域について学んだ視点や手法、それらを生かし、日野市の諸課題や将来に向けた構想などについて、生徒一人一人が自ら学び、お互いから学ぶことができる教材となっています。

3点目です。「地理プラス」というコーナーがあります。学習内容に関連した事例を紹介することにより、学びを広げ、自ら学ぶわくわく感につながると、そのように思います。以上です。

[高木委員]

私も帝国書院がよいと思いました。理由は、1つには、世界の諸地域の学習では、該当地域を写真と地図で概括的に把握しながら学習を進めており、日本の諸地域の学習では、地域の地方の地図を示してから関連の写真を示して学習を進めるなど、分かりやすい構成になっていることです。

2つ目として、各章や節ごとに問いが設けられていて、それらが各単元の「学習課題」につながっており、段階的に探求することで、各単元から節、そして章の課題解決に結びつく深い学びができる構成になっていること。

3つ目は、各単元が見開き2ページで構成されており、初めに「学習課題」が示され、単元の終わりに「確認しよう」、「説明しよう」が設けられていて、生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力の育成が期待できること。

4つ目として、持続可能な開発目標のSDGs関連や、地理の基礎的な技能、知識が学べる数多くのコラムが用意されており、学習意欲の向上につながる。以上です。

[東委員]

私は帝国書院がよいと思いました。選定理由としては、1点目は、世界の様々な地域の位置や自然環境や生活を把握するためには、地図や生活のリアルが伝わってくる写真が多

数掲載されており、分かりやすくイメージを膨らませて学習に向かうことができると思いました。

2点目は、日本の諸地域では、各地方の最初は1ページ使った特色のイラスト付きの地図から始まり、次に、写真で眺めるとして、見開きで大きな関連写真でその地域を俯瞰して入る導入が分かりやすいと思いました。

3点目は、「学習課題」で課題を明確にし、「確認しよう」、「説明しよう」では、地理的視点で眺めたり、考えたりができ、各種コラムの充実、地理プラスや未来に向けて技能を磨くで、学びが広がり、節の学習を振り返ろうでは、地理的な見方、考え方がステップを通して整理でき、最後には、持続可能な社会に向けて、自分たちの生活と関連づけながら話し合えるように、どの節も構成されているところが大変すばらしいと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も帝国書院がよいと思いました。学習指導要領で学習の冒頭に位置づけられた「世界と日本の地域構成」について見てみました。分かりやすい文章とキャラクターの会話がかかっている、これからの学習に必要な地図の読み方や作図などの基本を身につけることができると思いました。

次に、学習の狙いについてです。章と節の初めに「問い」が書かれています。また、項ごとに「学習課題」が載っていますので、生徒が学習の流れを意識しながら課題解決の学習をすることができると思いました。

また、章と節と項ごとに学習の振返りが設定されています。地図で求める力がしっかり育つと思いました。

また、豊富な写真が学習を楽しく活発にしていると思います。例えば、節の「とびら」に見開きで見事な写真と、イラスト、地図が載っています。これらのイラスト地図や写真から、生徒は地域の姿のイメージを描くことができるとともに、学習への意欲を高めるに違いないと思います。また、そこにいつか行ってみたいという気持ちも湧き上がってくるに違いありません。

各章の最後にある「地域の在り方を考える」コーナーでは、SDGsについての理解と関心を深め、行動に結びつくよい学習だと思いました。

また、「技術を磨く」コーナーでは23のテーマが設定されていて、略地図の描き方など、地理を学習する上で必要な基礎的な技術をしっかり身につけるようになっています。また、分かりにくい用語や、ふだん耳にしない用語を「解説」というコーナーで丁寧に説明しているのもよいと思います。これは学習をやりやすくしていると思います。また、キャラクターの会話が地理的な見方や考え方を助けて、主体的な学習を活発にしていると思いました。

以上です。

[米田教育長]

私も帝国書院がよいと考えました。各委員さんから既に多方面のことでコメントがございましたので、そこに重なる部分につきましては省略したいと思います。世界の諸地域、それから日本の諸地域の冒頭で、序説として、学ぶに当たってということで、その章の学

び方についてしっかりと書いてあるということ、それから、例えば世界の諸地域を、その地域を探求する主題と、それから注目する地球的課題ということで、しっかりと、まず一番初めに提示がある。日本の諸地域については、日本の各地方を探求する際に注目する視点と、地域に見られる課題ということで、しっかりとそれが書かれている。そして、それぞれの地域に入っていくという構成であるということです。

それから、既にほかの委員さんから、自分の住んでいるところの地域の在り方については、もうお話があったわけですがけれども、その中で、子供たちは、例えば類似をした地域と比較して関連づけをするということですがけれども、様々な人の立場に立って、それぞれの人が困っていることを考えながら、課題の要因を考えていくと、いわゆる本当の世の中ときちんと向き合っていく。もう既に委員さんのお話がありましたけれども、それが各地域の諸課題と、それから地球的規模の課題と関連づけながら考えていくという、そういう教科書だと思いました。この点から帝国書院がよいと考えました。

それでは、発言漏れや、追加のご意見はいかがですか。よろしいでしょうか。

それでは、社会（地理的分野）は点数が10点でございました帝国書院を採択候補として選定したいと思います。いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

[米田教育長]

異議なしということですので、社会（地理的分野）については、帝国書院を採択候補といたします。

次に、社会（歴史的分野）に入ります。よろしいでしょうか。社会（歴史的分野）につきましては、帝国書院が10点となりました。各委員さんからご意見を頂きたいと思いません。お願いします。

[真野委員]

私は帝国書院がよいと思います。選定理由を2点ほど挙げさせていただきます。1点目です。学習指導要領の改訂ポイントにある、社会事象を時期や推移等に着目して捉え、類似や差異等を明確にし、事象同士を因果関係など、関連づける見方、考え方を働かせるという視点です。ここで注目したのは、各年代の冒頭に「タイムトラベル」という企画があります。例えば、縄文時代と弥生時代の様子を描いた絵を見開きで並べまして、その比較ポイントや共通点などを自ら気づき、生徒同士で学び合うことができます。

また、各年代を俯瞰して学ぶことから入るため、一つ一つの断片的な、歴史的な事実を俯瞰図を通して関連づけて学ぶことができます。また、小学校で学んだことの振り返りにも活用できます。また、この図は各章の終わりでも振り返りとして活用できるように取り上げています。歴史が苦手な生徒にも、歴史を身近に感じてもらうことができるのではないのでしょうか。

次に、2点目です。学習指導要領にある各時代の文化について、代表的事例を取り上げて、その特色を考察するという視点です。幾つか例を挙げます。「多面的・多角的に考えてみよう」のコーナーでは赤穂事件を考察するという企画があります。多面的・多角的に捉えるために、資料を読み解き、生徒同士で話し合い、深め合う活動ができます。

また、「歴史を探ろう」というコーナーでは、絹の道と日本の製糸業を取り上げ、八王子

から横浜へ続く絹の道、あるいは横浜線の生い立ち、富岡製糸場との関連づけを紹介しています。日野市にあります旧蚕糸試験場が登録有形文化財に登録されるなど、身近な歴史ともつながるテーマではないでしょうか。

以上です。

[高木委員]

私も帝国書院がよいと思います。1つには、「タイムトラベル」というイラスト図が各時代ごとに、教科書全体として11か所に設けられています。各時代の特色を社会や暮らし、経済、文化などが象徴的に描かれていて、時代の特色を探す問いや、前の時代と比較し、変化や共通点を探す問いなど、分かりやすく学習できる工夫がされていることです。また、各章の学習の振り返りの中にも、この「タイムトラベル」を使用した問いがあり、親しみやすく楽しく学べることであります。

2つ目として、地理の教科書と同様に基本構成が同一になっておりまして、各章や節ごとに問いが設けられていて、それらが各単元の「学習課題」につながっていて、段階的に探求することで、各単元、節、章の課題解決に結びつく深い学びができる構成になっていること。

そしてまた、各単元が見開き2ページで構成されておりまして、初めに「学習課題」が示され、単元の終わりに「確認しよう」、「説明しよう」が設けられていて、生徒の知識・技能や、思考力・判断力・表現力の育成が期待できることであります。

それから3点目として、SDGs関連や歴史の基礎的な技能、知識が学べる数多くのコラムが用意されており、学習意欲の向上につながると考えております。

以上です。

[東委員]

私は、帝国書院がよいと思いました。1点目は、審議会の答申書にもありましたが、文化史のページでは、絵画や資料が大きく掲載され、日本の伝統文化や宗教について理解を深める際にとっても役立つと思いますし、世界史の地図が大きく時代の様相を捉える写真やグラフが見やすいと思いました。

2点目は、ほかの皆さんもおっしゃっていますが、「タイムトラベル」がとても特徴的でした。時代の様子、特色を子供にも楽しく探す感覚で学べ、章の振り返りでは、「タイムトラベル」を眺め直そうと時間軸で比較をして、楽しみながら違いを発見できるようになっているところが、とても面白いと思いました。

3点目は、年代のスケールは他社にもあるのですが、ページの下であったり、文章の初めのところにあたりするのですが、帝国書院は見開きページの縦の縁に年代スケールがあり、時代ごとに色別してあり、今学んでいる時代の位置がページめくりをしながらでも、とても分かりやすいと思いました。

4点目ですが、対話的学びのコラムが43テーマも掲載してあり、対話で学びを深めるきっかけづくりが多数あるところがよいと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も「タイムトラベル」を高く評価したいと思います。眺めていると様々な声が聞こえ

てきます。話し声、呼び声、笑い声、様々な音も聞こえてきます。時代の特色が分かり、様々な職業や生活、人生も見えてきます。生徒は、これらから様々なドラマをつくる学習に発展することができます、絵で、物語で、劇で、歌で。このページは、日野市の基本構想で求める多様な学び方が期待できるページだと思いました。イラスト世界地図も同様です。奈良時代の日本の文化を、世界との関係からより深く理解できるようになっています。生徒はここでも様々な物語をつくり出すことができます。

2つ目です。「歴史を探ろう」のページが充実していると思いました。たくさんの絵や写真、地図と、詳しく書かれた文章とで、今まで学習してきたことが具体的な絵を通してさらに深く理解できます。また、自分なりのテーマを持って学習を広げることができると思いました。

章と節の初めにそれぞれの問いがあり、見開きに学習課題が載っていますので、生徒が学習の流れを意識しながら課題解決の学習ができます。また、それぞれに学習の振り返りが設定されています。学んだことを確かめたり、考えたり、説明したりする学習を通して、確かな力をつけることができると思いました。

次に、女性の歴史を丁寧に扱っていると思いました。「女性と政治」の項で、帝国憲法では女性に選挙権が与えられなかったこと、「女性による社会運動」の項では、女性の選挙権獲得は1945年まで待たなければならなかったこと。人権のコーナーでは、各国の女性の選挙権が認められた年を載せています。「多面的・多角的に考えてみよう」のページでは、見開きで大正末期の3人の女性活動家の意見を踏まえて、自分の考えをまとめ、発表する学習があります。「新時代に求められた憲法」の項では、初めての女性国会議員の議場での写真が載っています。これらの学習から、18歳成人を迎える生徒に様々な課題について考えてほしいと思いました。

次に、地域史、これは18テーマありますが、多摩地方の自由民権運動を取り上げて、五日市憲法の一部が載っています。また、多摩地方についての記述があり、日野市の生徒が身近な歴史に関心を持つことができるよいページだと思いました。

[米田教育長]

私も帝国書院がよいと思いました。各1時間、1時間の振り返りのときに行う説明しようという、そういう学習、学びでは、その時代を俯瞰して押さえる視点を提示して、そして、自分の言葉で説明をしていくという、そういった学びをいたします。

また、節の終わりでは、節の冒頭に提出された問いに対して、またこちらも具体的な視点を提示されて、節全体を改めて捉え直しをして、説明をいたします。最後の章が終わった段階で、各節で振り返ったことを基に、自分の考えを、話し合いを基にして深めていく。そして、その時代の特色を、理由の基に説明をしていくと。それぞれが、自分の言葉でその時代を押さえて、話し合いを通して自分の考えを深めていくことができる、そういう教科書だと考えました。私は帝国書院がよいと考えました。

それでは、社会（歴史的分野）については、帝国書院が10点となりました。ご意見、発言漏れはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今申しあげました10点となった帝国書院を採択候補として選定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしとのことですので、社会（歴史的分野）につきましては、帝国書院を採択候補といたします。

では、次に、社会（公民的分野）でございます。教育出版が10点となりました。

では、各委員さんからご意見をお願いいたします。

[真野委員]

私は教育出版がよいと思いました。選定理由を2点ほど挙げさせていただきます。まず1点目です。教育指導要領にこのようにあります。要約ではありますが、個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から正しく理解し、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるという視点です。1例ですが、人権の考え方と歴史を学ぶという教材では、人権とは何かについてこのように書かれています。

私たち、一人一人は皆異なっていて、一人として同じ人間はいません。誰も代わりになることはできない、かけがえのない存在ですとあります。人権について、生徒一人一人が自分事として捉える視点を大切にしていると思います。

また、学習のはじめにというところでは、漫画や写真などを通し、1つのテーマについて自分で考え、グループで討議を行うことにより、これから学ぶ章についての関心事を見つたり、問い持って学習に入れるよう組み立てられています。

2点目は、学習指導要領にある現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うという視点です。これについては、教科書の最後の章になりますが、私たちが未来の社会を築くというところがあります。持続可能な未来をつくるために、私たちに必要なことはどのようなことでしょうかとの問いを基に、これまで学習した内容を振り返り、具体的な私の提案としてまとめ、対話を通し、内容を深めていく活動が丁寧にまとめられています。

これらのまとめを通し、自ら学び、お互いから学ぶ活動につながると考えました。

以上です。

[高木委員]

私も教育出版がよいと思いました。理由は、まず1つ目として、各章の終わりの「学習のまとめと表現」では、STEP1で知識の確認、STEP2では思考力・表現力の確認、STEP3では、話し合い活動を行い、深い学びができるように構成されていること。

2つ目は、各章の終わりに「次章への学習へ」というコーナーがあり、その中で、これまで学んだことを踏まえて、次に学習することの目標が記載されていて、学習のつながりが意識できること。

3点目として、第2章、「個人を尊重する日本国憲法」という章になりますが、そこでは、人権の考え方の歴史から説き起こし、基本的人権の尊重についての平等権、自由権、社会権など、そして平和主義についての本分が非常に丁寧に記述され、充実していて、各単元の学習課題やまとめの「確認・表現」も練られた設問で構成されていることです。

4点目として、SDGsの各課題について、多くの情報や単元で扱われていて、理解が進むこと。また、学習内容とSDGsの17の目標との関係が各単元ごとにページ下段に

示されているために、関わりが分かりやすく常に意識できること。

以上です。

[東委員]

私は教育出版がよいと思います。選定理由としては、1点目は巻頭ページの「公民の学習を始める前に」では、SDGsと絡めて10年後の自分や、地球を考える視点が示されていたり、公民は社会科学習の集大成であること、地理で学んできた社会を空間的に理解する方法、歴史で学んできた社会を時間的に理解する方法を活用して、今、自分が生きている現代社会を学び、考えることが公民の学習であることと、しっかりとした説明があるところがすばらしいと思いました。

それと対応するように、学びの最終ページには「公民学習の終わりに」があり、最後にもSDGsに触れており、17の項目に含まれない現代のグローバルな課題、例えば移民について共に考えていく必要性を投げかけてくれています。自分自身との対話は、持続可能な未来を築いていくことにきつとつながるでしょうと締めくくられていることに、この教科書のスタンスやメッセージに感動しました。

2点目は、ページ下で、小学校や他教科、SDGsとの関連を細かく表示している点は、ほかの教科書にもないきめ細やかさだと思いました。

3点目です。最終章では、「私たち、未来の社会を切り開く」と題して、1節、持続可能な未来と私たちでは、SDGsを改めて学び、2節、私の提案、自分を変える、社会を変えるでは、自分の考え方、生き方がどう変わったか、自分を振り返り、自己との対話を通して私の提案をつくり、3節では、持続可能な未来への対応では、他者との対話を通じて、お互いの共通点や相違点分かり、考え方の違いを乗り越え、新たなものを生み出していく学びは、まさに日野市が第3次教育基本構想で求めている姿だと思いました。

日野市にふさわしい教科書だと思います。3年の3学期、最後に時間がなくなるように、ぜひ計画的に取り組んでほしい部分だと思います。

以上です。

[西田委員]

私も教育出版がよいと思いました。学習指導要領で「選挙権年齢引下げに伴う政治参加等に関する指導を充実すること」が求められています。このことについて、教育出版は充実していると思いました。それは、「私たちの暮らしと政治」で取り上げています。中学生が地域の政治について、議会で意見を述べている写真から始まり、生徒たちが地方議会を傍聴に行き、それをまとめる学習をしています。

本文には、「議会を傍聴して、自分たちの生活、暮らしと政治との関わりを見直してみることは、とても大事な機会です。私たちが民主主義のあるべき姿を考え、捉えていくきっかけの1つになるでしょう」と書いています。日野市の生徒にもぜひ議会を傍聴してほしいと思いました。

また、「18歳選挙権と私たち」の単元で、写真や、表や、グラフを使って、投票年齢が20歳から18歳に引き下げられたことの意味を考えるようにしています。また、「個人を尊重する日本国憲法」の項では、初めて男女平等で行われた衆議院議員選挙の選挙風景や、世界の女性国会議員の比率などを載せて、主権者として社会に参加していくための視野を

広げている学習となっています。

次に、「国際社会に生きる私たち」では、国際社会の現状と日本の関係を、終章の「私たちが未来の社会を開く」では、持続可能な社会とは何か、どうしたら実現できるかを深く考え、自分なりに表現していこうとしています。

日野の生徒たちにこうした課題をしっかりと考え、意見を持ち、自分なりの表現をしてもらいたいと思います。市民の方が寄せてくださったアンケートにも、「子供たちに考えられるような問題が提起されていること、記述や分かりやすいタイトル」など、よい評価がなされています。

全体に、両性の本質的平等とか、食料と水の問題、子供食堂、それから平等であること、公正であることなど、生徒に知ってほしいこと、考えてほしいこと、話し合ってもらいたいことなどがたくさん掲載されています。日野の生徒たちにじっくり学習してほしい、よい教科書だと思いました。

[米田教育長]

私も教育出版がよいと考えました。全て国民は個人として尊重される。この憲法第13条を基に、一人一人がかけがえのない存在ということが中心に据えられて学習が展開をしています。例えば、各委員がもう話を既にされていますが、紹介がなかったものも紹介していきたいと思います。新しい人権では、環境権やプライバシー権、それからインターネットが普及した現代の新しい人権、こういったことを学びます。それから、国際社会における人権の尊重では、核なき世界の実現へ、終わらない地域紛争、世界の文化、宗教、様々な価値観の中で、地域間の経済格差、食料と水、子供と女性、資源とエネルギー、地球環境、そして終わりの章に入っていきます。

私たちの第3次基本構想の多様なみんなが認め合って、多様な人が支え合って、新しい知恵を出し合って、新しいよきものを生み出しながら未来をつくっていくと、そういう学習活動がしっかりと自分事として展開をされていくと思います。

また、併せて、深く読んで考えよう、公民の窓、公民のわざ、クリップ、それからルック、読み解こう、言葉で伝え合おうも充実して、重層的な取り組みがあると考えました。また、巻末の主要な法令では、宣言であるとか、規約であるとか、条約であるとか、それから憲章であるとか、主要な抜粋でありますけども、そこは主要としてしっかりと載っているということも、よいと思いました。私は教育出版がよいと思いました。

追加はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、社会（公民的分野）は教育出版が10点でございました。教育出版を採択候補として選定したいと思います。いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

[米田教育長]

異議なしということですので、社会（公民的分野）については教育出版を採択候補といたします。

続きまして、地図でございます。地図につきましては、帝国書院が10点となりました。各委員さんからご意見を頂きたいと思います。お願いします。

[真野委員]

私は帝国書院がよいと思いました。選定理由を3点ほど挙げさせていただきます。

まず1点目ですが、学習指導要領にある観察や調査の結果をまとめる際には、地図や諸資料を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするという視点です。世界の各大陸ごとの鳥瞰図を見ると、各地の自然環境や生活文化との関係性に気づくことができます。また、日本の地図では、各地の産業や特産物を表示、また、地形と歴史、防災の地図というところでは、よりリアルに実感できる地形の描写を通して、歴史や防災の視点で見ることができ、自ら学びを深めたり、生徒同士の問いを通して学びを広げることができると感じました。

2点目ですが、先ほど話がありました地理の教科書と同じ業者を選定することによって、地図や、いろいろなデータを活用しやすいという視点です。

それから最後、3点目ですが、地図のサイズが大きく、また見やすい文字、また色使いである点を挙げました。

以上です。

[高木委員]

私も帝国書院がよいと思いました。理由は、1つは、「地図帳の使い方」の項で、地図に関する基本的な見方、使い方を丁寧に説明されていて、使いやすいこと。

2つ目として、世界や日本の鳥瞰図が多く取り上げられておりまして、分かりやすく、楽しめる地図帳であること。

3つ目として、サイズが大きく、色合いもよいため見やすく、掲載資料やデータの数が多く、生徒たちの地理的好奇心を引きつけるであろうということでもあります。

以上です。

[東委員]

私は帝国書院がよいと思います。1点目は、地図が大きく、色味がとても見やすいほか、鳥瞰図では、一般地図では分からない山脈の高さや海溝の深さまで見られる地図が興味深く眺めることができると感じました。

2点目は、資料としての地図も豊富で、地域による特性に応じて気温や降水量、人口密度、農業や穀物、エリアによっては大気汚染、言語、森林の減少など、国のエリアごとに日本との結びつきとして、各国との輸出入などが載っていて、とても興味深い地図になっております。

日本では、農産物や工業がイラストで載っていたり、歴史上の重要な出来事があった場所や、重要な出来事に関わりのある場所も掲載されていて、歴史との連携、頭の中でマッピングされ、総合的に学びが広がる仕掛けが随所であり、生徒たちがいつまでも見ていられる楽しい地図帳だと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も帝国書院がよいと思いました。皆さん、おっしゃったことと同じように、紙面のサイズが大きいため地図を読み取りやすいです。また、世界と日本の鳥瞰図がとても楽しいです。どの生徒も、鳥瞰図から、地形、民族、文化、暮らし、生物など、様々なことが読み取れます。ここから、いろいろな学びが期待できます。

また、地図からも、産業、生産物、伝統文化、歴史など、様々なことが読み取れます。日野市の名前も載っています。資料地図、写真、グラフなども豊富です。「地図活用」がたくさん載っておりますが、生徒はここからも関心や興味をさらに深めて、主体的な学習を行っていくことが期待できます。

以上のことからです。

[米田教育長]

私も帝国書院がよいと思いました。地図帳の冒頭、巻頭のところで、いろいろな地図を使いこなそうということで、一般図についての説明があります。それから、今、各委員さんから話がありました鳥瞰図で説明があります。そして資料図です。資料図のところには、ここに書かれています。自然、農業、工業、人口、交通、歴史などのテーマで、それぞれの地域の特徴をつかめるようにした図です。違うテーマの資料図と比べて見ると、その国や地域の特徴をより深く理解できます。この資料数が圧倒的に多いということが、やっぱりこの帝国書院の1つの大きな特徴かなというふうに思います。

また、地名数も多いということです。各委員さんも既にお話をされていますので、私は、それプラス、こういう観点から帝国書院がよいと考えました。

追加はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、地図につきましては、帝国書院が10点でございました。帝国書院を採択の候補として選定をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしとのことですので、地図については帝国書院を採択の候補といたします。

では、ここで議事の都合上、休憩をとりたいと思います。15時45分から再開をしたいと思います。

では、休憩に入ります。

休憩 15時40分

開始 15時45分

[米田教育長]

再開をいたします。

次は、数学について協議を行いたいと思います。数学については、教育出版が6点、東京書籍が3点、数研出版が1点となりました。各委員さんからご意見を頂きたいと思いません。お願いいたします。

[真野委員]

私は教育出版がよいと思います。選定理由を2点ほど挙げさせていただきます。1点目です。学習指導要領にある数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や、数学の必要性を実感するという視点です。この点に関して、各章の頭に、これから学ぶ章の意義や必要性を感じる内容が書かれています。

1例ですが、整数の性質のところでは、自然界にも数字の秘密が隠れているとのタイトルで、素数ゼミのことを取り上げています。また、章の終わりには、最小公倍数を学んだことを振り返って、先ほどの素数ゼミと関連づけて述べています。このように、数学を学

ぶ意味を持たせることにより、数学への関心度がさらに高まることを期待します。

2点目です。学習指導要領にある、数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その過程や結果を評価、改善するという視点です。これについては、教科書の冒頭に学習の流れをまとめて書いています。疑問を大切にしよう、問題を見いだして解決したり、さらに振り返ったり、深めたりするプロセスを大切にしようとなり、教科書の随所に問題を見いだそう、自分の考えを持とう、友達の考えを知ろう、みんなで話し合おう、振り返ろう、深めようなどのプロセスを意識できるよう、マーク、印をつけております。

また、同じく冒頭に書かれています数学的な考え方というところでは、問題解決を進めるときの考え方、問題を発展させるときの考え方、問題を明確にしたり、解決の手がかりをつかんだりするときの考え方について書かれています。これらを意識しながら学ぶことにより、数学的な考え方の持つ面白さに触れることができるのではないのでしょうか。

以上2点です。

[高木委員]

私は、東京書籍と教育出版、2社が共によいと思いました。その理由についてですが、まず東京書籍についてですけれども、1つには、日常のいろいろな事象を数学化したり、数学的に解釈したりする段階が丁寧にきちんと設けられていて、学習に入っていくやすいこと、2つ目として、学習事項での説明や補助的な解説が丁寧過ぎず、細か過ぎず、生徒自身が試行錯誤で考えられる余地や、自由な思考ができる部分が残されていて、比較的じっくり学習できる構成であること、3つ目として、今回の学習指導要領の改訂で2年生に追加された「箱ひげ図」の場面では、ある場面でよく用いられるヒストグラムとの比較で、それぞれよいところや違いを話し合うなど、実社会での利用を意識しての学習の工夫がされていること。以上であります。

そして、教育出版の理由についてですが、1つには、各学年、教科書の初めに「学習するに当たって」として、疑問を大切にしよう、プロセスを大切にしよう、話合うときは工夫してノートを書こうと、ポイントを記載しています。

また、「数学的な考え方」として、4ページにわたり、前の学年の学習を振り返りながら考え方の説明がされ、まとめられています。これらを意識しながら学習を進めることは、数学の学習をより深められると考えることであります。

2つ目として、日常のいろいろな事象を数学化したり、数学的に解釈したりする段階が設けられていて、学習に入っていくやすいこと、3点目として、学習事項での本文に対して、その説明や補助的な説明、アドバイスなどがページの右側に細かく丁寧に表示されているので、非常に理解しやすい構成であること。それぞれ、以上であります。

[東委員]

私は、数研出版と東京書籍を選びました。数研出版は、先生や生徒役のキャラクターの吹き出し会話がとても多く、会話を通して課題解決のプロセスが見えてきたり、理解が深まったり、行き詰まったときにとってもよいヒントになると感じ、数学的な観点を学びながら、とても分かりやすい教科書だと思いました。

東京書籍では、市内小学校の教科書が東京書籍だという点で、生徒にとってつくりやキ

キャラクターがなじみのある教科書であるというところが大きなところでは。また、小学校と中学校の学びの接続を意識し、ゼロ章が設定されています。算数の九九を用いて、生徒たちが考えを自由に発言してもよい教材から始まっているということで、クラスをスタートしたばかりのどの学級でも、学級開き、授業開きに役立つのではないのでしょうか。

友達の考えから、いろいろな考え方があることを知り、これから大切にしたい数学の学び方が身につくようになっていて、とてもよいと思いました。

以上です。

[西田委員]

私は教育出版がよいと思いました。他社の教科書と時間をかけて比較検討して、最終的に教育出版に決めました。その理由は、章の扉で数字の不思議さや古代の数の表し方、また、データの日常の生活や社会との関係等々を取り上げられていて、生徒のこれからの学習への興味や意欲を高めるものとなっています。写真や簡潔な文章もよいと思いました。

次に、章の始まりの「レッツ・トライ」で導入課題を設定して、生徒の生活に身近な題材を取り上げているので、生徒が興味や関心を持って新たな学習に入っていけると思いました。

次に、問いを立てて問題解決に至るまでの過程が丁寧で、理解しやすく、説明の部分は分かりやすいと思いました。新しく学ぶ用語への説明も丁寧で分かりやすいです。

また、確かな学力が身に着くように様々な工夫があります。章に入る前のページに「学習する前に」のコーナーがあり、今までの復習をして、新しい学習に入るようになっています。章の終わりには「学習のまとめ」と、「章の問題」、巻末には補充問題があります。巻末の「学びのマップ」は、小学校や前の学年で学習したことが分かりやすくまとめてあり、繰り返しながら力をつけていくことができます。

「数学の広場」も、生徒の数学的興味を引くものとなっています。数学の世界が広がる期待できます。今までは教室で先生から丁寧に教わるというような学習が主流でしたけれども、これからは、いつまで続くか分からないウィズ・コロナとか、いつ起こるか分からない自然災害、学校に行きにくいお子さんが増えていくことなどを考えますと、家でオンライン授業の頻度が上がるのが考えられます。

また、自分で獲得していく学びに変わっていくのではないかと思います。そういう意味で、教科書はますます重要となると思います。そういうことから考えると、開いたときに魅力を感じるもの、それから生徒自らが読み解いて学ぶことができるように、学習内容や説明を精選して、学習の流れ、文章、言葉などの説明が丁寧であること、分かりやすいことが大事だと思います。

また、題材が自分の生活につながり、広がりのあるもの、そしてさらに学びたくなるものだと思います。そういう点から考えて、教育出版を選びました。

[米田教育長]

私は、東京書籍と、それから教育出版、それぞれがよいと思いました。まず、東京書籍です。簡単なモデルを丁寧に順番を追って、数学的な体験作業と、頭の作業を進めてくれる教科書だというふうに思います。キャラクターのヒントがあまり多くを語らないで、そして数学的活動が始まって、その中で法則性などに気づいていって、そして楽しさを発見

していく、そういう教科書だと思います。

教育出版は、説明を丁寧に重ねて、その導きによって数学的な思考の楽しさに入っていくような、そういう教科書だと思います。双方とも、日常のいろいろな体験とか、日常の場面とのつながりがこの数学的な思考と丁寧につながってしまっていて、両方とも、そういった意味では日常生活とのつながりや、体験とのつながりの工夫をしておりますので、そういった意味からもこの2つ、東京書籍と教育出版、双方、よい教科書だと思います。

追加のご意見、ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、数学は、集計の結果、点数が6点と最も高かった教育出版を採択候補として選定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、数学については教育出版を採択候補といたします。

それでは、理科の協議に入りたいと思います。理科については、新興出版社啓林館が8点、大日本図書が2点でございます。それでは、各委員さんからご意見を頂きたいと思っております。お願いします。

[真野委員]

私は、新興出版社啓林館がよいと思います。選定理由を2点ほど挙げさせていただきます。1点目です。学習指導要領の改訂ポイントにある、自然の事象、現象に進んで関わり、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの、科学的に探究する学習を充実するという視点です。

この点では、冒頭に理科の学習を進めるための探求の過程を示しています。身の回りの自然現象や日常生活の中から疑問を見つけ、解決したい探求の課題を決定し、その課題に対し根拠を明らかにした上で仮説を立て、その仮説を確かめるために、見通しを持って具体的な計画を立て、観察、実験を行う。そして、最後にその結果を基に考察をし、探求の課題を解決することができたか、振り返りを行います。このようなプロセスが丁寧に書かれており、見通しを持って学習に取り組むことにより、理科の楽しさに触れることができるのではないのでしょうか。

2点目です。学習指導要領の改訂ポイントにある、理科を学ぶことの意義や有用性の実感、及び理科への関心度を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視するとの視点です。この視点では、各単元の頭にQRコードで、各単元で学ぶ内容を映像で紹介しております。生徒の関心を引き寄せることができるのではないかと思います。

また、随所に掲載されている「科学コラム」という欄では、「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災・減災ラボ」などのタイトルで、理科で学んだことが、日常生活や社会と関連している、その視点を学ぶことができます。ほんの1例ですが、物質の密度を学んだ後で、「お料理ラボ」があります。そこでは、ドレッシングを振ってから使うのはなぜという問いかけのもとに、内容を掲載して、学んできたことをぐっと日常生活に引き寄せています。

以上です。

[高木委員]

私も、新興出版社啓林館がよいと思いました。その理由についてなんですが、1つには、学習事項の中で設定された各課題は、理科の見方、考え方を働かせて考えるように工夫されていて、科学的に探求するための資質・能力の育成により適していること。

2点目として、全般的に自然の事物・事象について、解説や観察・実験の結果の説明が多くの写真やイラスト等を用いて丁寧に書かれ、充実していて、理解がしやすい流れ、構成になっていること。

3つ目として、各学年単年ごとに1か所に「探求実験」があり、自分で「どのような疑問を解決したいのか。課題を明確にする」ことから始め、「課題に対する自分の考え」を書き、他のメンバーの考えを参考に自分の仮説を立てる。仮説を確かめるために、どのような実験を行えばよいか「計画」し、「結果の予想」をする。そして、実験の「結果」をまとめ、結果から「考察」をして仮説が確かめられたかを考える。このような、これら一連の過程を行うことで科学的に探求する力が身についていくと考えることであります。

4つ目として、各学年ともに「科学コラム」として、「部活ラボ」や「お仕事ラボ」などの多くのクラブが設けられております。特に、「お仕事ラボ」は、「将来の仕事を探してみよう」と、いろいろな業種の職業人や専門家に取材をして、学習単元との関わりを交えて理学的な視点で紹介をしています。ひのっ子の将来の夢が広がることが期待できること。以上であります。

[東委員]

私は新興出版社啓林館がよいと思います。1点目は、教科書のサイズがワイドになり、写真や資料が豊富に載っており、特に写真がクローズアップされ、鮮やかで縁から飛び出してくるような構図になどもあり、ダイナミックで、子供たちがわくわくページをめくりたくなるような紙面だと思うことと、なかなか実際の授業で見せることができない天候や、天体、宇宙に関してはリアルに近い写真で学ぶことができるのは、新興出版社啓林館の強みだと感じました。

2点目は、デジタルコンテンツが充実している点です。QRコードはどの出版社にも見られるようになっていますが、まだ巻頭ページにのみQRコードがあり、メニューから選んで該当ページを見なければならぬのがほとんどですが、新興出版社啓林館のよいところは、各ページの該当部分にQRコードがあり、すぐに対応しているコンテンツが見られるところです。

中身も、実験器具の操作方法の動画から、各章の初めには既習事項の振り返り、各章の終わりには学習のまとめ、NHK for Schoolなどのウェブリンクなど、390ものリンクは圧倒的な数であり、理科の学習にはとても有効的だと思いました。

3点目は、理科の学びが日常生活や社会の中でどう関連しているかを紹介してくれるコラムの充実さです。「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災・減災ラボ」、「深めるラボ」と豊富で、特に「部活ラボ」や「お料理ラボ」は、中学生にとっても理科を身近に感じられると思いました。

以上です。

[西田委員]

私は大日本図書を選びました。初めに、新たに設けられた「生物の分類」について、教

科書がどのように扱っているか調べました。生徒たちは、校庭周辺の生物を観察してから、それを自分たちで考えた観点で分類し、その考えた観点と結果を発表し合います。そして、植物を分類するにはどのような特徴に注目したらよいかを考え、話し合っています。活動的で楽しい学習だと思いました。この学習を基にして、2章の「植物の仲間」、3章の「動物の仲間」に進んでいきます。中学校での理科学習のスタートとなる教材が丁寧につくられていると思いました。

次は、写真や絵についてです。写真や絵がたくさん載っていて、学習を分かりやすくして、生徒の関心や意欲を高めていると思いました。特に扉の写真はスケールが大きくて、心に迫るものが多いです。全体には抑えた色調で美しく仕上がっています。

次に、細かい配慮についてです。6人のキャラクターは男女とも同色、同型のブラウスとネクタイに統一しています。性的マイノリティーの生徒に配慮したものと思われまます。また、理科室の決まりのページでは、生徒はネクタイを外しています。安全への細かい配慮が読み取れます。実験上の注意事項が黄色い色で、目につきやすい配慮となっています。

次に、各単元の最後にある探求活動についてです。単元で学習したことを使って、生徒が主体的に問題を見つけて課題を解決していく学習になっています。例えば、植物をいろいろな観点から分類できることを学んだ後に、自分なりの観点で自分の植物図鑑をつくる活動が載っています。これは、日野市の基本構想で求めている、「自分に合った多様な学び」であると思いました。

コラムが充実しています。「生物の世界」の章の最後に載っている「万葉集から見る植物」は、奈良時代の人は植物をどのように観察していたか、日本人の心の原点を知る、よい教材だと思いました。国語で万葉集を勉強しますから、他教科との関連もよく考えられていると思いました。

多摩動物園のチーターが、2年生の「生き物を見にいこう」に載っています。生徒たちに、動物園に行って、チーターやたくさんの動物たちと会話をしてきてほしいと思いました。

以上です。

[米田教育長]

私は、新興出版社啓林館がよいと思いました。この教科書は探求の活動が丁寧に展開されていく教科書だというふうに思いました。課題、仮説、計画、観察、実験、結果、考察、表現と、丁寧に学習が進みます。特に仮説を立てること、そこでは今までの経験や学習から、課題に対して自分の考え、つまり仮説を、根拠を明らかにして、そしてグループの中で立てていこうという活動です。この仮説を立てるところに、この教科書の1つの大きな特色があると思いました。

また、観察、実験の技能も豊富で、しっかりと分かりやすく、写真やイラストで要点を押さえています。サイエンス資料も充実をして、しっかりとした探求姿勢や探求活動の案内となっています。教科書の中のキャラクターのヒントを手がかりに、理科的な興味をそれぞれの自分に合わせて進めていける教科書だと思いました。

以上のことから、新興出版社啓林館がとよいと考えます。

ご意見、いかがですか。漏れはございませんか。大丈夫ですか。

それでは、理科については、集計の結果、点数が8点と最も多かった新興出版社啓林館を採択候補として選定したいと思いますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、理科については、新興出版社啓林館を採択候補といたします。

それでは、音楽(一般)に移ります。音楽(一般)につきましては、教育芸術社が10点となりました。各委員さんからご意見を頂きたいと思います。お願いします。

[真野委員]

私は教育芸術社がよいと思いました。選定理由です。学習指導要領の改訂にある、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いて、そのよさや価値などを考えたりしていくという視点です。深めよう、音楽というワークシートが充実をしています。1例ではありますが、ヴィヴァルディの「春」のところでは、各旋律で聴き取ったこと、感じ取ったことを書き込み、その理由も添えて、みんなで共有できるよう組み立てられています。

さらに、旋律の特徴、楽器の音色、強弱、音の重なりなどの聴き取る視点も掲載しています。また、チェンバロ奏者へのインタビュー記事を掲載しており、聴き方にさらに深みを増してくれています。

以上が選定理由となります。

[高木委員]

私も教育芸術社がよいと思いました。理由ですが、1つには、学習指導要領を踏まえ、表現や鑑賞の各教材ごとに音楽を形づくっている要素が示されているので、何を学ぶのかが分かりやすいこと、2つ目には、教科書に沿って学習を進めると、みんなで話し合っって作成するワークシートが幾つか設定されていて、主体的・対話的で深い学びにつながる事が期待できること、3つ目は、ヴィヴァルディ作曲の「四季」から「春」を聴く教材がありますが、曲の解説内容や、音楽を聴いて曲想を感じ取ったことなどを書き入れるワークシートがあるなど、曲の鑑賞に当たっての取扱いが工夫されていること。

以上です。

[東委員]

私は教育芸術社がよいと思いました。1点目は、音楽的な見方、考え方を働かせる際の大切な視点となる音楽を形づくっている要素、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャー、強弱、形式、構成が各教材のページに文字で記載され、何を学ぶのか、生徒に分かりやすい紙面構成である点や、生徒が自分の考えを書き込めるワークシートがところどころにあり、対話的・協働的に理解を深める活動へとつながり、音楽の学びが分かりやすい教科書だと思いました。

2点目は、郷土や地域の祭りのページがあり、自分たちの住んでいる地域に伝わる祭りや芸能について調べて、歴史や背景を知り、そのよさを味わいましょうとなっています。次世代に受け継ぐために、自分たちがどのように関わっていけばよいのかを考える、中学生が祭りの担い手として活躍している様子が紹介されているところが、自分事として捉えられるよいところだと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も教育芸術社がよいと思いました。教科委員会からの報告からは、現在使用している上での問題は聞かれませんでした。審議会の答申でも、教科書への記入ができるワークシートがあること、写真がたくさんあり、多様な学びのきっかけとなっていること、1つの楽曲に対する確な問いかけが掲載されており、生徒が自力で楽曲分析を行える工夫がなされていることなど、様々な面から評価をしています。また、体験活動が取り入れられて、実感や親しみを持って学習が進められるようになっていることも記載しています。

次に、教科書全体を眺めまして、感性豊かな教科書だと思いました。例えば、教材「赤とんぼ」では、学習の目標が簡潔に書かれていて、美しい情景と桑の実、作詞・作曲家の写真、そして作詞者の温かさを感じる言葉などが掲載されています。ほかのページでも、本当に美しい構成になっています。

また、様々な分野の演奏者からのアドバイスはよいコーナーだと思いました。音楽を理解し、音楽が好きになる、そんなコーナーではないかと思いました。生活や社会の中の音楽のページには、お寺の大きな鐘が載っています。日野市にもお寺に鐘があり、大晦日には鐘の音が聴こえてきます。身近にある音に関心を持つきっかけとなる、よい教材だと思いました。

以上です。

[米田教育長]

私も、教育芸術社がよいと思いました。まず、それぞれの楽曲にその音楽活動の目標テーマが載っていて、そして、作者からのメッセージなど、楽曲を味わうための情報も提供されています。その中で、曲想、音楽の構成、歌詞の内容を味わいながら、音楽表現の創意工夫や鑑賞活動が丁寧に展開されるよう工夫された教科書だと思います。

特に、深めよう、音楽のコーナーでは、そういった活動が丁寧に展開されるよう促されています。冒頭、1年生の教科書ですけれども、小沼純一さんがこう記しています。音楽の世界への誘い。音楽は人がいるところ、どこでもあって、国や文化によって様々な異なっている。音色の好み、音の並び、楽器もそれぞれ違う。それぞれに価値がある。単純に好き、嫌いだけでなく、別の軸を持つことで、それぞれの音楽、人のこと、言葉のことを尊重できるというふうにあります。そのことがしっかりと音楽活動の中で自分のものとなる教科書だと思いました。音楽の世界の新しい生き方が広がる、そういう教科書だと思いました。

追加はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、音楽一般については、教育芸術社が10点でございました。教育芸術社を採択候補として選定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、音楽(一般)については、教育芸術社を採択候補といたします。

では、次に、音楽(器楽)に移っていきたいと思います。音楽(器楽)については、教

育芸術社が10点となりました。各委員さんからご意見を頂きたいと思います。お願いします。

[真野委員]

私は教育芸術社がよいと思いました。選定理由を3点ほど挙げさせていただきます。

1点目です。日野市の場合、使用する楽器はリコーダーが中心となります。その点で、充実をしているというところを重視しました。リコーダーの課題曲は見開きで完結をしています。また、レッスン1から4へ順番に難易度を上げている。その視点を評価いたしました。

2点目は、教育指導要領にある他者と共に1つの音楽表現をつくる過程を大切にするという視点です。これについては、アンサンブルの課題曲では、グループでそれぞれのパートに合う楽器を選び、実際に演奏し、確認するという組立てになっています。

最後、3点目ですが、先ほど述べました音楽一般の教科書と同じ業者を選定するということによる使いやすさの視点を重視しました。

以上です。

[高木委員]

私も教育芸術社がよいと思いました。理由についてですが、1つには、教科書の中でアルトリコーダーの演奏に最もページ数を割いています。この中で、教材がタンギングから段階的にレッスン1、2、3、4と設定されていて、補完、発展的の両方の学習に配慮されていること。そして、小学校で習ったソプラノリコーダーでも演奏できる楽譜が併せて掲載されているなど、内容が充実していることです。

2点目として、69ページ、日本音楽（雅楽、歌舞伎、民謡など）の楽器編成や、70ページからは、打楽器についても多くの種類の記載があり、多様な学びにつながることで

以上です。

[東委員]

私は、音楽一般と同じく、教育芸術社がよいと思いました。アルトリコーダーのパートでは、アルトリコーダーだけでなく、ソプラノリコーダーの扱いも充実しているのも、とてもよいことだと思いました。

2点目は日野のどの学校でも扱っているという琴に関して、10ページと一番紙面を割いているところもよいと思いました。

3点目は、打楽器の紹介の豊富さです。カスタネットや小太鼓、大太鼓などの身近だったものから、カフオン、ジャンペなど、珍しい打楽器の紹介もあるところが、生徒たちの興味を引くところだと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も教育芸術社がよいと思いました。教科委員会の報告からは、現在使用している上での問題点は聞かれませんでした。審議会の答申も、アーティキュレーション、パートの役割、曲の構成など、協働的に学べるよう記載されていること、レコーダーの教材がスマールステップで示されており、補完、発展の学習に十分な配慮がなされていることなど、様々

な場面から評価しています。

次に、巻末の和楽器の音楽のページでは、中学生が楽器を演奏する写真が載っています。日野でも、和太鼓をたたく中学生が大勢います。また、様々な種類の太鼓やギターを紹介し、演奏を聴く学習になっています。これらを学んで様々な楽器に関心を持ち、自分でも様々な楽器の演奏に挑戦して、人生を豊かにしてほしいと思いました。音楽一般とのつながりも考えて、同じように教育芸術社を選びました。

[米田教育長]

私も教育芸術社がよいと思いました。まず、リコーダーです。1つのページを大きく使って、タンギングについて丁寧に説明をして、練習をしていきます。そして、その次に、一つ一つの音の切り方やつなぎ方のアーティキュレーションの説明があって、そして、その練習が始まります。その次に、丁寧に段階を踏んだレッスンを重ねていくと、そういう丁寧な教科書になっております。以上のことから、教育芸術社がいいと、私も考えました。

追加のご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、音楽の器楽は教育芸術社が10点でございました。教育芸術社を採択候補として選定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、音楽(器楽)については、教育芸術社を採択候補といたします。

それでは、次に、美術を協議していきたいと思います。美術につきましては、日本文教出版が10点となりました。各委員さんからご意見をお願いしたいと思います。

[真野委員]

私は、日本文教出版がよいと思いました。選定理由を3点ほど挙げさせていただきます。まず1点目です。学習指導要領改訂ポイントに、造形的な見方、考え方の3つの視点として、1つ目、感性や想像力を働かせる、2つ目、対象や事象を造形的な視点で捉える、3点目、自分としての意味や価値をつくり出すとあります。原寸大や原色を忠実に再現した写真、また、絵画等が多く、その迫力感や本物感が伝わる内容となっています。中には、紙質までこだわり、工夫されている作品もあります。本物に触れることで磨かれる感性、創造力を大切にできる教材であると思います。また、生徒の作品も多く紹介されており、この点でも、生徒の感性、創造力を磨くことができるのではないのでしょうか。

2点目です。教科委員会の先生にご意見を聞いた場で、作品の迫力感や、本物感が伝わってくる、そういう教科書を使って生徒の学びを深めたいとの熱い思いが伝わってきたことです。その点で、この日本文教出版の教科書は最適であると考えました。先生のわくわく感が生徒一人一人のわくわく感にもつながるものと確信しています。

3点目です。学びの言葉として、日野市出身の井浦新さんの言葉が紹介されています。これからの時代、どのような仕事に従事しても、アートの視点は重要になると言われています。その意味でも、大人になってみると、一番大切なのは美術だったとの言葉は、大きなきっかけを与えてくれるのではないのでしょうか。

以上です。

[高木委員]

私も日本文教出版がよいと思いました。理由は、1つには、各題材ごとに、身に着けた力を3つの「学びの目標」として、分かりやすい言葉で明記されていること。

2つ目として、ゴッホや火焰型土器の実物大の部分写真は迫力もあり、筆遣いや質感をよく見ることができること。

3つ目は、全体として生徒の作品が作者の言葉とともに多く掲載されていて、親近感を覚えること。

4つ目は、3学年で、3冊に教科書が分かれていることで、基礎から発展の系統性を意識した題材設定になっていること。

以上です。

[東委員]

私は日本文教出版がよいと思います。1点目は、審議会の答申書にもあるのですが、ゴッホや火焰型土器の実物大部分写真は非常に迫力があり、質感や筆遣いまでよく鑑賞することができる点があり、私が実際見ても、作品の本物さが伝わってくる紙面であると思いました。

2点目は、日野市の中学校出身の井浦新さんが巻頭、学びの言葉で登場している点はどうも素晴らしいところです。先生と生徒のやり取りで、〇〇中学校卒業なんだよ、ええっというような驚きから、身近に感じられる紙面での出会いが、新さんの本物を見る力を養ってほしいというメッセージが、より子供たちの心に届くのではないかと思います。

3点目は、生徒の作品が多く掲載されており、自分と同じ年代の子の作品がより身近に感じられ、作者の言葉も載っている点で、制作過程の思いや、造形的視点などを慮ることができるような紙面構成になっているので、生徒の興味関心を引く工夫がされているところが非常によいと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も日本文教出版がよいと思いました。1つは、一部とはいえ原寸大のゴッホの絵を教科書で見られるのはとても幸せなことだと思いました。この絵から生徒たちはどんなことを感じ、どんなことを語るのでしょうか。原寸大の浮世絵を見た中学生は何を思うのでしょうか。聞いてみたいです。一部とはいえ、火焰型土器を見たら、土器の迫力に魅了され、もっと土器を見たくなるでしょう。自分でもつくってみたくなるでしょう。こんな作品が載っている教科書は、ぜひ手元に置きたくなります。

次に、紹介されている生徒の作品は、個性が溢れていて自己を強く主張しています。したがって、見る者に迫ってきます。これらの作品を見たら、生徒たちの創作意欲は大いに湧くでしょう。生徒たちに、自分でなくてはつくることのできない自分の作品をつくってほしいと思いました。

また、皆さんもおっしゃっていますが、日野市の中学校で学んだ俳優の井浦新さんは、ぜひ美術館や博物館などを遊び場にして、何度も何度も本物を見て、見る力を養ってほしい。そこにかかる時間を惜しまず楽しんでくださいと言っています。生徒たちの先輩はとてもすてきな言葉を中学生に語っています。きっとこの言葉を聞いたら、美術館や

博物館に足を運ぶことでしょう。教科委員会からも高い評価があると聞きました。したがって日本文教出版を選択したいと思います。

[米田教育長]

私も、日本文教出版がよいと思いました。まず、1年生の冒頭に、絵や彫刻との出会い、あなたらしさを見つけてという巻頭、この教科書の一番初めの部分に、感性や創造力を自由に働かせて表現することで、新たな見方や感じ方、自分の持つ価値観などに気づき、新しい自分を発見できることでしょうとあります。

各單元ごとに造形的な視点が丁寧に記されていて、それによって作品や、それから素材との対話が始まってまいります。この教科書のいろいろな点は、既に各教育委員さんがお話をされましたので、私は美術の2年生、3年生の下の部分の最後のところに書かれているのが、一番この教科書の象徴的なことかなと思いましたので、そこをお話をしたいと思います。

美しいものは、どこにどのように宿っているのか、どうすれば役に立つのか、問題は解決するのか、悩み、考えながら、自分なりに乗り越えてきました。新しいものを生み出していくことは楽しさであり、この上ない喜びでしたね。美術から得た学びは、あなたの一生の友として、人間らしく、自分らしく生きていくことを内側から支えてくれるはずです。

この教科書は、こういった活動をしっかりと丁寧に導いてくれる、そういう教科書だと思いました。

追加のご意見は。はい、どうぞ。

[西田委員]

先ほど、最後に「教科委員会からも高い評価があると聞きました」と言ってしまったような気がするのですが、実際に聞きましたので、「高い評価を聞きました」と訂正したいと思います。

[米田教育長]

はい。あと、ご意見があれば、どうぞ。よろしいでしょうか。

それでは、美術につきましては、日本文教出版社が10点でございます。日本文教出版社を採択候補として選定したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしとのことですので、美術については、日本文教出版を採択候補といたします。

ここで議事の都合上休憩をとります。16時45分からということで、5分程度の休憩となります。換気のほう、よろしくお願ひします。

休憩 16時40分

開始 16時45分

[米田教育長]

それでは、再開いたします。

それでは、保健体育を協議いたします。保健体育につきましては、学研教育みらいが8点、大日本図書が2点となりました。

では、各委員さんからご意見をお願いいたします。

[真野委員]

私は、学研教育みらいがよいと思います。選定理由を2点ほど挙げさせていただきます。1点目は、学習指導要領にある生徒の主体的・対話的で深い学びの実現という視点です。各テーマ、見開きで、「学習の目標」、「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」のステップで、自ら学び、お互いから学ぶ活動ができるよう組み立てられています。

次に2点目です。学習指導要領にある、体育や保健の見方、考え方を働かせながら、運動や健康について自他の課題を発見し、その合理的な課題解決のための活動の充実を図るとの視点です。1例を挙げますと、リラクゼーションという表題があります。具体的に使用できるストレスチェックシートがあり、自分自身の課題をそのチェックシートを通して発見することができ、さらに、リラクゼーションするための実践方法も充実しています。また、日野市が力を入れているがん教育についても内容が充実しています。

以上です。

[高木委員]

私も学研教育みらいがよいと思います。その理由ですが、1つには、1単位時間の流れが、「学習の目標」、「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」という構成で理解が進み、深まる構成であること。

2つ目として、保健編の1年生の2章、「心身の発達と心の健康」や、2年生、3章、「健康な生活と病気の予防」での生活習慣病やがんと、その予防、喫煙、飲酒、薬物の乱用と健康について、基礎・基本について丁寧に記述されていて、充実していること。

3つ目として、単元ごとに基本的に見開き2ページでの構成で、本文に合わせ資料や写真、コラム、補足などが多く用いられて分かりやすくまとめられていること。

以上です。

[東委員]

私は、学研教育みらいがよいと思いました。1点目は、ページ構成がとてもよく、「課題をつかむ」で、導入時に保健体育的視点で課題を考えることができ、「考える」、「調べる」で、課題解決に向かい、課題解決方法を身につけることができ、「まとめる」、「深める」で、実生活の中で自分の行動につなげることができるように構成され、見開き2ページが1時限となるように構成されている点で、見通しの立てやすい学習活動が期待できると思いました。

2点目は、今回の学習指導要領の改訂で、ストレス対処に関する技能が新たに加わったとのこと。ストレスは、思春期の中学生にとってとても身近に考えられることであり、自ら気づき、対処できることを学べることはとても大切なことです。そのページを見比べましたところ、学研教育みらいはストレス対処の例を多数掲載してあり、自分と周りの人たちの心と体、そして命を大切にすることを学ぶことができます。

3点目には、性の多様性について取り上げているところです。思春期の性意識の変化の中で、男女という表現ではなく、相手という言葉を使っているとの説明があり、多様な性を尊重している点や、人のコラムでは、虹色ダイバーシティ代表の村木真紀さんのコラムの中では、LGBTなどの性的マイノリティーを扱い、少数者の声を社会を変える力にと掲載が出ているところもよい点かと感じました。

以上です。

[西田委員]

私は大日本図書を選びました。2章の「心身の発達と心の健康」には、成長期の中学生に大切なことがたくさん書かれています。例えば、「体の成熟と心の成熟」の項ではこんなことが書かれています。「中学生の時期に、私たちは生命を生み出す体へとすばらしい成長を見せます。しかし、生命を生み出し、育てていくためには、体の成熟だけではなく、心の成熟や経済的、社会的自立が必要です。生命を生み出す体へと成熟するこの時期に、異性を尊重し、未来の世界を担う一員として成長できるように心がけましょう。」これは、とても大切なことだと思いました。

また、「異性に対する理解と尊重」の項では、「性への正しい理解と行動は、相手のことをよく理解しよう、尊重しようとする態度から導かれます。お互いの性に対する意識や行動の違いを理解し、自分らしさを大切にして、相手のよさを認め合い、高め合える人間関係を築いていくことがとても大切です」と書かれています。

また、性への意識や行動には、個人差と男女差があることなども述べられています。こうした本当に大事なことをしっかり書いている教科書は、私が読んだ限りでは見当たりませんでした。ぜひ、こういう大事なことが書かれていることを基にして、考え、そして話し合い、成長していったほしいと思いました。

次です。紙面の構成がどのページも同じなので、とても見やすく、学習しやすいと思いました。また、文章と資料が整理されていて、文章量も少ないので、大変分かりやすいです。

3つ目は、がんの予防と感染症の原因と予防について、たくさんの資料を基にして丁寧に扱っています。今のこの社会状況の中で、このがんに関する学習と、感染症に関する学習をこれだけページを割いているということは、時宜にかなったよい教材だと思いました。また、スポーツの楽しみ方についても触れています。そんなことを考えて、私はやはり大日本図書を使いたいと思いました。

[米田教育長]

私は、学研教育みらいがよいと考えました。3人の委員の方が話されているのですが、それにプラスして、21ページにスポーツの面白さについてこう書いてあります。どちらが勝つのか、確率が同じぐらいで結果が分からないこと、つまりイーブンチャンスが欠かせないと言われてますと。

その次、24ページですけれども、アダプテッドスポーツが紹介されていて、障害を持った方、高齢者、子供が、いろいろなその特性を持っていても、誰もが得点や勝敗に関わることができるよう、工夫されたユニバーサルなスポーツが紹介をされます。

そして、その次に、スポーツをつくるというコーナーで、新しいスポーツ像へのチャレンジの活動を図るといふ、そういった活動もこの教科書で展開をされます。

以上のことから、私は学研教育みらいがよいと考えました。

追加のご意見や、発言漏れはございますか。よろしいでしょうか。

それでは、集計結果で8点と、最も点数の高かった学研教育みらいを採択候補として設定をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

よろしいでしょうか。異議なしということですので、保健体育につきましては、学研教育みらいを採択候補といたします。

次に、技術家庭（技術分野）について協議を行います。技術分野につきましては、開隆堂出版が8点、東京書籍が2点という結果でございました。それぞれ委員さんからご意見を頂きたいと思っております。お願いします。

[真野委員]

私は、開隆堂出版がよいと思っております。選定理由を2点ほど挙げさせていただきます。まず1点目です。学習指導要領にある生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現、試作等を通じて具体化し、実践後、評価、改善していくという視点です。

学習の流れとして、漫画を通し、課題を設定し、その解決策を考え、具現化して、その結果を評価していく、いわゆるP D C Aのサイクルで活動できます。問題解決の手順を示す教材では、例えば着目すべき問題解決の視点を吹き出しで紹介するなど、分かりやすく表示しています。また、知識や技能の内容についても充実しています。1例としては、電化製品の中身を写真などを通し、詳しく理解しやすいようにまとめています。また、各章の頭に歴史・年表があります。技術の変遷や発明の歴史などを読み取ることができ、知識、技能を深める視点を評価したいと思っております。

大きな2点目ですが、学習指導要領の改訂で加わりましたネットワークを利用した、双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決ということですが、この点については、この言葉の定義を含めて、分かりやすく説明をしている点を評価しました。

以上です。

[高木委員]

私も開隆堂出版がよいと思っておりました。理由についてですが、1つには、教科書の頭の部分、6、7ページで、「技術分野の流れ」として、4コマ漫画も使いながら分かりやすく説明していること、それから、8、9ページで、「企業のものづくりの流れ」では、「技術分野で行う学習の順序と、社会で行われている企業のものづくりの順序は似ています」として、電動アシスト自転車の企画、開発、設計、製造を例にP D C Aサイクルの説明があり、今日的なマネジメントシステムの仕組みの基本的な原理にも焦点を当てていること。

2つ目として、技術分野では、「A 材料と加工」、「B 生物育成」、「C エネルギー変換」、「D 情報」の4単元で学習をするわけなのですが、各技術分野ごとの主な歴史が世界の技術と日本の技術が示され、技術発展の経過が分かりやすく、興味を引くこと。

3つ目として、学習指導要領の改訂のポイントの1つである「技術の最適化」について、「A 材料と加工の技術、2-1 問題解決の手順」で、身の回りの問題の発見と解決の実習と併せ、具体的、段階的に考え方の説明があり、分かりやすく学習が進められること。

以上です。

[東委員]

私は東京書籍がよいと思っておりました。教科委員会でも使いやすいと評判であったというこ

とも大きな判断要因です。

選定理由の1点目は、今回、学習指導要領の中で出された技術の見方、考え方は、生活や社会における事象を技術との関わり視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化することです。

ここで、考え方として、あまりなじみのない最適化という言葉の説明が一番分かりやすく説明されているのが東京書籍でした。まず、巻頭、最適化の窓として、観点別に視点名が多数明示されている点や、見開き漫画で分かりやすく説明しているので、まず押さえておきたい見方、考え方であり、今後学ぶ技術に大きなサポートになると思いました。

2点目は、情報モラルや情報セキュリティに関してです。ネット依存など、中学生でも身近な問題であり、社会的にも大きな課題でもあります。安全に利用するための情報モラルの中で、6つもの事例を取り上げて便利な面と、注意すべき点から最適な利用方法を考えられるようになってきているところは、非常に詳しく、丁寧な話し合い活動が期待できると思いました。

3点目は、審議会答申書からも、プログラミング教育などを含めての多様な問題解決例を数多く取り上げ、座学と実習のバランスを考慮しながら、学校の実態に応じた実践的・体験的な学習活動が行えるよう工夫されていること、とてもよい教科書だと思いました。

以上です。

[西田委員]

私は開隆堂出版を選びました。学習を始める前に、まず作業を始める前の、安全のページとガイダンス、「生活や社会における技術の役割」が充実していると思いました。技術を初めて学ぶ生徒にとって、大変よい学習だと思いました。「私たちは、生活を便利で豊かにするために、技術を受け継ぎ、発展させてきました」という文章から始まり、技術に関する主な歴史が掲載されていて、そして、5つの項目に続いていきます。大変いいスタートだと思いました。

また、単元の初めの扉が充実しています。インパクトの強い写真に添えて、その章でどんなことを学ぶのか、しっかり記述されています。

また、学習の流れと、そこで学ぶ技術の歴史と、小学校との関連、他教科との関連が分かりやすく整理されて記述されています。ここでもよい学習はできると思いました。

また、学習の流れがよく分かります。調べてみよう、考えてみよう、話し合ってみよう、そして実習と続いていくことがよく分かります。

また、たくさんの実習の例が示されていて、学習の幅を広げています。次に、動物の飼育技術のページに、命の大切さを重んじる生命倫理について触れていることがとてもよいと思いました。

また、実習例に「乳牛の飼育」が取り上げられています。また、酪農教育ファームについて記述されているのがよいと思いました。牧舎は日野市にもあり、酪農家もおられます。また、近隣の市には酪農教育ファームがあり、たくさんの子供や生徒が酪農体験をしながら、食や、仕事や、命について学習をしています。日野の子供もそこで体験学習をしています。毎日飲んでいられる牛乳を生産する酪農について扱っていることは、とてもいいことだ

と思いましたが。キャリア教育の上からも高く評価したいと思いました。

また、日野市ではトマトがたくさん生産されています。農家が工夫を重ねてとてもおいしく、他に誇れるトマトです。このトマトを教材に扱っている教科書を、使いたいと思いました。

[米田教育長]

私も、開隆堂出版がよいと思いました。教科書の表紙にテクノロジーに希望を乗せてと書いてございます。そのとおり、そのことにしっかりと向き合った教科書だと思いました。技術には、工業技術もありますけれども、農の育成技術ということの観点も、日野の中では大切かなと思います。委員からも説明がありましたけれども、トマトの育成技術に関するページがとても多い。その中で、例えば灌水の回数を変えて甘いミニトマトを目指すという、そういった実習であるとか、社会とのつながりの中で課題を捉えて、育成技術の工夫やこだわり、そういった実習や学習が促されていると思えます。

日野の農ではトマトが1つの大きな特色です。トマト農家が日々いろいろな工夫をしながら、トマトを提供している。そういったことに、日野の中のリアルと結びついた教科書だと思えます。

それから、開発者に聞きました。製作者に話を聞きました、社会に対するものづくりの使命、そういったコーナーもあって、技術やテクノロジーのスピリッツを学ぶことができる、そういう教科書だと思えます。私は開隆堂出版がよいと思いました。

ご意見、ほかにございますでしょうか。ありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。

それでは、技術家庭の技術分野は、集計の結果、開隆堂出版が8点ということで、最も点数が多い結果でございました。開隆堂出版を採択候補として選定したいと思えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、技術家庭（技術分野）につきましては、開隆堂出版を採択候補といたします。

それでは、技術家庭（家庭分野）について協議をしたいと思えます。

集計の結果、開隆堂出版が10点となりました。各委員さんからご意見を承ります。お願いします。

[真野委員]

私は、開隆堂出版がよいと思えます。選定理由を3点、挙げさせていただきます。まず、1点目です。学習指導要領の改訂ポイントにある、家族、家庭の機能と、生活の営みに関わる見方、考え方との関連を図るための内容の充実、特に少子高齢化社会の進展への対応で、幼児との触れ合い体験などを一層重視という視点であります。その点では、教科書の冒頭に、家族、家庭生活の章を配置し、その重要性を示している点。また、その中でも幼児の生活と家族の内容が充実をしている点を重視しました。

2点目です。学習指導要領の改訂ポイントにある、衣食住の生活では、和食、和服などの日本の伝統的な生活について扱うという視点です。つなげよう、和服の文化の教材では、和服と洋服との比較、浴衣の着方、帯の結び方などを取り上げています。

3点目です。学習指導要領改訂ポイントには、消費生活、環境では、消費者被害への対応が取り上げられています。中学生の消費者被害のページでは、具体的な中学生被害の実態をまとめることにより、実践に結びつけられる内容となっています。さらに、先輩からのエールとして、消費者被害拡大を防ぐ仕事に従事している弁護士のインタビュー記事を載せ、学びをさらに深めることができると思います。

以上です。

[高木委員]

私も開隆堂出版がよいと思います。理由は、まず1つには、教科書の初めの部分に「家庭分野のガイダンス」がありますけれども、「家族・家庭と地域の生活」、「生活の土台」、「自立と共生」、「生活の見方・考え方」などが分かりやすく整理・説明されていて、学習が進めやすいこと。

2つ目として、学習指導要領では、学習の時期を指示されている項目があります。その指示に則って教科書の単元が構成されているので、学習が進めやすいこと。

3つ目として、各単元、「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費者生活・環境」において、持続可能な開発目標SDGsをテーマにした学習項目が設定され、内容が充実していること。

4点目、各ページの下段に学習内容に関する「豆知識」の欄が設けられていて、情報が豊富なこと。

以上です。

[東委員]

私は、開隆堂出版がよいと思います。1点目には、冒頭、見開きにて、自立と共生に関してきちんと説明している点は素晴らしいと思いました。自立とはどのようなことだろう。生活的自立、精神的自立、経済的自立の説明があり、共生とはどんなことだろうかと、他者との共生、自然との共生、地域社会との共生という説明があり、とても分かりやすいと思いました。

2点目は、社会の変化に対応して改訂された新学習指導要領に沿って、1章より、家族、家庭生活を持ってきています。幼児との触れ合い体験や、地域の人々との協働に多くの紙面を割き、話し合い活動へと発展した学習ができるようになっていくところがよいと思いました。実際の生活の中で、家族や地域のことを意識し、自分ならどう関わられるのだろうかと考えきっかけになるとよいと思いました。

3点目は、料理の写真の豊富さです。食品に関しては、全て本物に近い色味の写真で、実物大の大きさと載せてあります。手順なども見開きで大きく写真で分かりやすく、すぐにでもつくれる、生活に直結するように実用的なところもよいと思いました。

4点目は、実生活の社会課題から、中学生の消費者被害が見開きページで取り扱われており、スマホを1人1台持つ時代、デジタルコンテンツの利用で、中学生も被害に遭うことが急増している今、具体的な事実の資料やデータを基に、自分で考えることや、対策をみんなと話し合える時間を持てるように構成されているところがよいと思いました。

以上です。

[西田委員]

私も開隆堂出版がよいと考えました。まず、各章の終わりに載っている先輩からのエールはすばらしいと思いました。インタビューに答えるなど、様々な人が今している仕事や、仕事をする上で大切にしていること、喜びや苦勞、中学生に伝えたいことなどを、それぞれの言葉で語っています。中学生が将来の自分の姿を描き、希望を持って生きることができる、よいページだと思いました。

次に、家族と家庭生活の単元の中の「幼児の生活と家族」、「幼児とのかかわり」が充実していると思いました。幼児と遊び、幼児の愛らしさをじかに感じながら、幼児の身体や心の成長、遊びの大切さを理解することは、成人して、やがては子供を育てる中学生にとってとても大切な学びだと思いました。幼児と関わる様々な体験が紹介されています。最近、兄弟が少なくなっている生活の中で、あまり幼児と触れ合うことのなかったであろう中学生が、いろいろな学校の活動の中で幼児と触れ合いをすることはとても大事なことだと思いました。

次に、生活に役立つ基礎・基本となる知識と技能が身に着くように丁寧につくられた教科書だと思いました。例えば、煮魚の手順や配膳の仕方、浴衣の着方などなどです。帯の結び方まで取り上げているのは、ここの社だけのような気がしました。これらはすぐに生活に役立つページだと思いました。ずっと手元に置いて役立つ教科書だと思います。

また、消費者教育が充実していると思いました。中学生の消費者被害を自分事として考えるページが見開きであります。成年年齢が18歳になることから、このページを使ってしっかり勉強してほしいと思いました。

以上です。

[米田教育長]

私も開隆堂出版がよいと思いました。まず、冒頭の第1章、多様な人々の住む地域との関わりということで、いろいろな角度からの関わりが丁寧に書かれているということです。

あと、また子供にとっての遊びの持つ意味につきましても、この開隆堂出版は非常に本質的なことを書いておりました。

また、お話があった和食、和服など、日本の伝統的な生活というところでもう少し加えますと、食で言いますと、昆布だしとカツオ節のだし、それぞれのだし、そして昆布とカツオを併せた合わせだし、この3種類を使いまして、それぞれの味をきちんと、舌、味覚と嗅覚で味わうというコーナーがあります。これは和食文化の一番の大本であるだしについて、和食の文化をきちんと五感でしっかりと体験するという活動です。

また、和服につきましても、和服と洋服を並べて対比されていまして、和服のこの直線の組合せで日本的な柔らかさ出していく、反物を直線で切り取っていくという、そういう日本の伝統的な生活のことがしっかりと書かれています。

それから、中学生の消費者被害ですけれども、相談内容が具体的に書かれていまして、アダルト情報サイト、オンラインゲーム、出会い系サイトなど、今の子供たちの日常生活の中でのリスクがきちんと書かれていて、そういった意味でも適切かなと思いました。

以上等のことから、開隆堂出版がいいと、私も思います。

ほかにご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか、漏れはないですか。

それでは、技術家庭（家庭分野）は、開隆堂出版が10点でございました。開隆堂出版

を採択候補として選定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、技術家庭（家庭分野）については、開隆堂出版を採択候補といたします。

それでは、次に、外国語を協議いたします。外国語は光村図書出版が10点ということでした。

それでは、各委員さんからご意見を伺いたいと思います。お願いします。

[真野委員]

私は光村図書出版がよいと思います。選定理由を2点挙げさせていただきます。まず、1点目です。学習指導要領の改訂ポイントにある、互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する。そのためには、架空のモデル的な対話での繰り返しではなく、相手の思いや言葉に反応して、自分の思いや考えを伝える実践感のある即興性を意識した対話を目指すという視点です。

この点を重視した光村図書出版の教科書が適していると、このように判断をしました。教科書のつくりが、3学年を通して登場人物が成長していくというストーリー性があり、より現場感のある日常会話が取り上げられています。小学校から学んでいる英語を嫌いにならず、生徒の英語に対する関心度をより高め、楽しんで学ぶことができるのではないかと考えました。

2点目です。3年生の教科書では、広島への旅行を通し、広島、原爆を取り上げ、会話やピースボランディアの手記、当時の中学生の日記などを通し、言語活動を深めています。旅行を題材にしているため、自分の思いや感情をそのまま実践感のある会話へ結びつけることができます。教材の背景理解に時間を費やすよりも、登場人物の気持ちをどう受け止め、自分の気持ちをどう表現するのかなどの即興性のある言語活動を深めることができるのではないかと考えました。

以上です。

[高木委員]

私も光村図書出版がよいと考えました。理由についてですが、まず1つには、教材として、生徒と同年齢の4人のキャラクターの成長とともに学習が進む展開になっていて、生徒が親しみやすく、楽しみながら学べる構成になっていること。

2つ目として、各学期ごとの教材、「You Can Do It!」では、5領域を統合した課題が設けられ、言語活動の目的や状況、場面に応じて生徒の思考力・判断力・表現力を育てる工夫がされていること。

3つ目には、巻末の「Let's Talk」と「Story Retelling」という教材が、話すことの即興性を継続的に育成することに役立つこと。

4つ目として、読み物教材に、3年生では広島への原爆投下で亡くなった当時の広島第二中学校1年生の男子生徒の日記が掲載されていて、戦争中の同じ年頃の生徒の生活に触れられること。

以上です。

[東委員]

私は、光村図書出版「Here We Go!」がよいと思いました。

1点目は、自分たちと同じ中学生が3年間成長していくストーリーに興味、関心が持て、場面設定は自分たちの身近である学校生活や行事の中で日常的に使う会話形式で英語を学んでいける仕掛けになっています。英語に苦手意識のある子でも、とっかかりやすく、開きたくなるような、続きが知りたくなるような教科書だと思いました。

2点目は、平易な会話のみではなく、内容を考えさせられる長文も多数掲載されている点も、バランスがよいと感じました。「Let's Read」のある部分では、最新技術のロボットについて学び、病気や障害などで外出が困難な人たちが、オリヒメ分身ロボットを使ってカフェで働く様子を紹介された文章がありました。オリヒメ分身ロボットは日野の中学校でも利用したこともあるので、とても身近なこととして考えさせられる内容ではないかと思いました。

3点目は、日本人はペーパー問題はできても、実社会での英会話は苦手とされていることが課題とされてきました。今回は、新学習指導要領で求められている即興性を身につけさせる工夫も多数用意されています。どの学年の巻末にも、「Story Retelling」、「Let's Talk!」、「Active Words」があり、授業の初めなどに継続して行う帯活動として取り組めるとよいと思いました。

4点目として、特に英語に関しては、母国語でないため、ネイティブな発音に触れる、耳から何度もインプットする必要があると感じています。各ページにQRコードがあり、自宅で何度でも発音を確認したり、アニメーションの場面を見ることができるとは、自宅での自立的な学びにも役立ち、より学びの定着が期待できるのではないかと思います。

以上です。

[西田委員]

私も、光村図書出版がよいと考えました。皆さんと同じですけれども、自分たちと同じ年齢の生徒を中心に、身近な生活や学校の話を取り上げて、会話のやり取りが繰り返されています。生徒は自分事として楽しく学習することができると思います。この楽しい学習の繰り返しこそ、英語の力をつけていき、英語が好きになるのではないかと思います。

また、コミュニケーション活動を行った後に、あるいはその途中で、生徒に必要な基礎基本を学ぶ学習が丁寧に行われています。外国語の5つの領域別目標がしっかり達成できると思いました。

また、5つの領域別目標が題材ごとに生徒に分かりやすく表示されています。さらには、左右見開きのほぼ同じ位置に決まった言語活動が配置されていますので、生徒には学習の流れがわかりやすく、学習もしやすいと思いました。

読み物教材は、体育、社会、美術など、教科横断的な題材を活用しており、充実しています。例えばスポーツ、各国の地理、鳥獣戯画などが載っています。それはそれぞれの教科とつながっています。また、同じ学年に応じた題材が工夫されていて、とても充実していると思いました。

また、登場人物の表情がとても豊かです。自分の考えや気持ちを表現するのに表情が大

切なことを学ぶよい教材だと思いました。

[米田教育長]

私も光村図書出版がよいと考えました。この教科書は1年生の初めの部分で、自分に合った学び方を選んでみましょうとあります。自分が楽しいと思うやり方で、例えば自分が好きなことと英語を結びつけること、そして、間違いを恐れずにとということで、各委員からご紹介がありました、そういった英語の活動が始まっていきます。

実際の学校生活の中で英語の楽しさと活動を基に授業が展開される、そういうような教科書だと思います。また、その状況に応じて、ぱっと英語が出てくるという学習指導要領でうたっているとおり、即興性の英語活動が楽しめる教科書だと思います。

この教科書を基にして、学校の日常の中に英語の必然性をたくさん、たくさんつくっていくことができる。これによって、英語が本当に身についていく、自分のものになっていく、そういうことができる教科書だと思います。

また、読み物についても各委員から紹介がありました。例えば3年生には、プラスチックごみの環境問題という一番最先端の問題を英語で読んで、そして英語で考える。いわゆる自分事としての英語をマスターしていくことができる教科書だと考えました。光村図書出版がよいと考えました。

どうぞ、追加や、発言漏れのものがあれば出していただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、外国語については、光村図書出版が10点でございました。光村図書出版を採択候補として選定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、外国語については、光村図書出版を採択候補といたします。

[谷川教育部参事]

ただいまの協議で、来年度使用する英語の教科書の候補としまして、光村図書出版が候補となりました。来年度使用する教科書は、新たに採択した発行者の新版教科書を使用することが原則となっております。ただし、これには例外がございます。外国語と道徳につきましては、東京都教育庁指導部管理課から令和2年6月に出されている、令和3年度使用教科書採択の手引に留意事項がございます。記載されている留意事項を読ませていただきます。

全学年について、新たに採択した発行者の新版教科書を使用することが原則であるが、採択替えにより、今年度と異なる発行者の教科書を使用することとなった場合、採択権者の判断により、第1学年については、採択変更後の発行者の新版教科書を使用し、第2、第3学年については、採択変更前の発行者の新版教科書を使用することも可能であると、記載がされてございます。

先ほどの協議の中で、外国語につきましては、光村図書出版が候補となりました。したがって、来年度の第2、第3学年におきましては、現在使用している三省堂の新版教科書を使用することも可能となります。来年度の第2、第3学年が使用する教科書につつま

して、候補となっている光村図書出版のものを使用するか、現在使用している三省堂の新版教科書を使用するか、委員の皆様にご協議いただきますようお願いをいたします。

以上でございます。

[米田教育長]

それでは、今の件につきまして、ご意見をお願いいたします。

真野委員、お願いします。

[真野委員]

先ほど選定理由として挙げましたけれども、学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、即興性を意識した対話を目指した光村図書出版の新しい教科書を、来年度から第1学年と同様に、第2、第3学年についても使用することが望ましいと思います。

[米田教育長]

皆さんいかがですか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

よろしいでしょうか。それでは、今のご意見のように、来年度の第2、第3学年につきましても、新しく候補としているものについて使っていく、そういうような協議ということでもよろしいでしょうか。

では、これは採択が決定してから確定するということになりますけれども、協議の段階ですけれども、よろしいですね。

では、ありがとうございました。

それでは、次に、道徳の協議をしたいと思います。道徳につきましては、学研教育みらいが10点となりました。委員さんからご意見をいただきたいと思います。お願いします。

[真野委員]

学研教育みらいがよいと思いました。選定理由を3点ほど挙げさせていただきます。まず、1点目です。教育指導要領にある、生徒自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫すること。

その際、道徳性を養うことの意義について、生徒自ら考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにするとの視点です。つまり生徒が主役の授業、先生が生徒と共に考え、楽しむ授業をとの観点です。教師や教科書があらかじめ考えた結末や、正解に誘導するような授業からの脱却との観点です。

この点で考えると、発問数が少なく、発問内容がシンプル、表題のテーマが見出しに書かれていないなどの視点を重視しました。単純な理由のようですが、発問や表題のテーマが丁寧に書かれていれば、生徒があらかじめその内容に触れた場合、先回りして表題から導き出される結末や正解を頭に描いてしまう、そういう懸念があると考えたからです。同じ教材を読んでも、生徒一人一人の受け止め方や感じ方、感じるポイントは異なるはずで、出来合いの発問に縛られない、その違い、気づきをすくい上げる授業を期待したいためです。

次に、2点目です。教育指導要領に書かれている身近な社会課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てるという視点です。1例を

挙げます。臓器移植についてです。臓器移植は難しい課題ではありますが、漫画を通し、生徒へ語りかけた後、臓器移植について様々な考えを持っている人がいることを、5人の手記をコンパクトにまとめて掲載しているため、文章理解に時間をとられることなく、自分視点で考える時間を少しでも長めにとることができます。

さらに、あなたにとって命を大切にすることはどういうことだろうとの発問で、さらに深く考えることができるなど、組立てのよさを感じました。

最後、3点目です。教材の内容についてです。命やいじめを重点テーマにして選定している点、人間性の描写が深い古典的な教材と、新たな教材をバランスよく採用している。新たな教材では、現在活躍している人も登場するなど、生徒が身近に感じられる視点も重視しました。

以上です。

[高木委員]

私も、学研教育みらいがよいと思いました。理由は、1つには、道徳科というのは、昨年から教科化されて間もない状況にあること。日野市は現在、学研教育みらいの教科書を使用しているわけですが、今回改訂で発問の内容ですとか、発問の数も練られていること。

2つ目として、いじめについての教材数が多く、様々な内容項目から、多角的・多面的に考えられるように配慮されていること。

3つ目として、生命尊重について全学年の最重要課題として設定されていて、各年で3つの教材を用意されていること、以上から学研教育みらいがよいと思いました。

以上です。

[東委員]

私は学研教育みらいがよいと思います。1点目は、道徳の4つの視点、自分自身に関すること、人との関わりに関すること、集団や社会に関すること、生命や自然、崇高なものとの関わりに関することがマークや色別で示されていて、生徒も先生も分かりやすく、その中でも、命の教育はさらに重点項目として位置づけられており、17教材と圧倒的に数も多く、命の教育を大切にしている日野市の教育に合っていると思いました。

2点目は、日野市の障害者青年学級生だった石川正一さんの著書、「たとえ僕に明日はなくとも」が命のテーマとして掲載されていることです。限られた命の中で、石川正一さんが、彫刻、絵、読書、詩に懸命に取り組んだ姿は、日野市の子供たちの心にも何かを感じるに違いありません。

3点目は、前の石川正一さんの次の作品として載っているものですが、「いのちより大切なもの」という詩に関してです。命が一番大切だと思っていた頃、生きるのが苦しかった。命より大切なものがあると知った日、生きているのがうれしかったと、とても短い詩なのですが、心にぐっと来るものがあります。下に問いがあり、あなたには命よりも大切なものがあるだろうか。あるとしたら、それは何だろう。この発問で、子供たちが様々なことを感じ、考え、お互いに違いを知り、認め合い、考えを深め合う、そんな命の活動がされるでしょう。

日野市の教育で最も大事にしているテーマは命です。学研教育みらいも、命を平仮名と

開いた表現にしているところも、日野市教育と相通じるものがあり、ふさわしい教科書だと思いました。

4点目です。教科委員会からの話にもあった中で、教員の先生たちへのサポート教材が充実しているところも大切な視点だと思います。中心発問を変えられるワークシート、評価の文章をつくれるソフトなど、道徳を専門にしていない教員でも同じ質の授業を展開でき、実際にとても使いやすいとの声を聞くことができました。前回に引き続き、継続していけたらと思います。

以上です。

[西田委員]

私も学研教育みらいを選びました。各学年の教科書の最初のページに載っている3人の言葉はとても深い意味を持っていると思いました。学年の初めに、生徒たちが先生と一緒に話し合う、よい教材だと思います。

次に、皆さんがおっしゃったことと同じように、「いのちの教育」の教材が充実しているということです。生命尊重が全学年の最重点課題として設定されており、各学年で3本ずつ教材が準備されています。その他の内容項目からも命の大切さを考える教材があります。1学年には、石川正一さんを取り上げた「たとえぼくに明日はなくとも」が載っています。石川さんは日野市で育ち、人々にたくさんの感動を与えて、生きることについて教えてくださいました。ぜひ日野市の中学生に、この教材を読んで、考え、話し合ってもらいたいと思います。

また、命の教材にはすぐには結論の出ない重いものもあります。時間をかけて考え続けることが大事だと思います。日野市では、子供たちが学んでいってほしい力を、「すべてのいのちが喜び溢れる未来をつくっていく力」としています。命の教育を重点テーマとして教材を充実させている教科書を使用することは自然なことだと思います。

次に、東日本大震災で母を亡くした女子中学生が強く生きる姿を描いた、「亡き母へのトランペット」、また、苛酷な自然の中で正直に生きる「ネパールの少年」の教材が、引き続き今回も取り上げられています。そのほか、中学生を題材にした教材がたくさん載っています。日野市の中学生が読んで、考え、話し合ってもらいたいと思います。

ひのっ子教育21開発委員会の報告書では、道徳の在り方について、教師の頭の中にある正解を考えさせるような授業からの脱却と、教師があらかじめ考えた結末に誘導するような授業からの脱却を挙げています。日野市では、こうした授業を目指して、各学校とも大変、道徳教育が高まっていますが、さらにこの教科書を使用することによって、よい授業をつくってほしいと思いました。

道徳の教科委員会の報告も、本書を評価しています。道徳が教科化されて日が浅いことを考えますと、引き続き学研教育みらいを使用していきたいと思います。

最後に一言つけ加えますと、人物の生き方や考え方などから学ぶ主な教材に取り上げられている女性の数はまだまだです。2学年では、新たに上げられた女性は見当たりません。男女平等教育の観点からも、さらなる改善を期待したいと思います。

以上です。

[米田教育長]

私も、学研教育みらいがよいと考えました。教材のよさは各委員からお話をさせていただいています。私は問いについて、少しお話ができればと思います。各教材の最後の問いが導いてくれる自分との対話の営みが、とても奥深いものだと感じました。

例えば3年生です。ありがたいの不思議な力では、あなたのありがたいにはどんな思いが込められているだろう。「笛」という教材では、異なる意見を尊重しつつ、自分も成長していくにはどうすればよいか考えよう。「町工場から宇宙へ」の教材では、新しいものを生み出そうとするときどんな考え方が必要であろう、「はるかなる生命の物語」では、私たちは境界を超えてはならないとはどういうことだろうか、自然との共生のために人間はどうあるべきか考えよう。

このように、自分との対話を通して、自分の奥にあるものにゆっくり、丁寧に届いていく、そういった活動ができるよい教科書だと思いました。

意見の追加はよろしいでしょうか。

道徳は、集計の結果、点数が10点と最も高かった学研教育みらいを採択候補として選定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしということですので、道徳については、学研教育みらいを採択候補といたします。この採択候補となりました学研教育みらについては、現在使っている教科書会社でございます。先ほど参事のほうから、外国語と道徳については話がありました。その他の教科についてはいかがでしょうか。

[谷川教育部参事]

教育部参事でございます。それでは、その他の教科の教科書の取扱いについてご説明をさせていただきます。令和3年度に使用する教科書でございますが、新たに採択した発行者の新版教科書を使用することが原則とはなっております。しかしながら、外国語と道徳以外の教科につきましても、東京都教育庁指導部管理課から令和2年6月に出されております、令和3年度使用教科書採択の手引に留意事項がございます。

考え方といたしましては、複数年にわたって使用することを想定して作成されている教科書につきましても、今年度配布した教科書を来年度以降も使用することになっております。前年度までに給与したものをそのまま使用するものといたしましては、書写、第2学年の社会(地理的分野)と(歴史的分野)、どちらもになります。それから地図。それから、第3学年では、音楽の一般になります。だから、音楽の器楽合奏につきましても、3学年全てが続けて使用になります。それから、第3学年の美術、保健体育、技術家庭科でございます。また、社会の地域的分野におきましては、第1学年で給付された教科書を第2学年まで使用すること。それから、社会の歴史的分野につきましても、第1学年で給付された教科書を第3学年まで引き続き使用することとなっております。

以上でございます。

[米田教育長]

今の説明は、新2年生、新3年生についての取扱いということによろしいですか。

[谷川教育部参事]

はい、新2年生、新3年生でございます。

[米田教育長]

ということでございますので、念のため説明を求めました。

以上で、協議事項第3号、日野市立中学校教科用図書の選定についてを終了いたします。

ここで議事の都合上、休憩をとります。18時5分から再開をいたします。よろしくお願いたします。

休憩 17時55分

開始 18時05分

[米田教育長]

再開をいたします。

議案第23号・日野市立中学校教科用図書の採択についてを議題といたします。事務局より提案理由の説明をお願いします。

○議案第23号 日野市立中学校教科用図書の採択について

[谷川教育部参事]

教育部参事でございます。それでは、議案書1ページをお開きください。議案第23号市立中学校教科用図書の採択についてでございます。提案理由でございます。先ほど協議いただきました結果を踏まえて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項及び第14条、同法施行令第14条第1項及び第15条第1項の規定に基づき、令和3年度に日野市立中学校で使用する教科用図書を採択するものでございます。

中学校教科用図書の種目及び発行者を読み上げさせていただきます。

国語、光村図書出版、書写、教育出版、社会（地理的分野）、帝国書院、社会（歴史的分野）、帝国書院、社会（公民的分野）、教育出版、地図、帝国書院、数学、教育出版、理科、新興出版社啓林館、音楽（一般）、教育芸術社、音楽（器楽）、教育芸術社、美術、日本文教出版、保健体育、学研教育みらい、技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版、技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版、外国語、光村図書出版。外国語につきましては、先ほど協議いただきましたように、令和3年度第2学年、第3学年においても光村図書出版ということになります。道徳、学研教育みらい。以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いたします。

[米田教育長]

事務局からの説明が終了いたしました。この件につきましては、先ほど協議いただきましたが、さらにご質問やご意見があったらお願いたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

[米田教育長]

なければご意見、ご質問はこれにて終結いたします。

お諮りいたします。議案第23号 日野市立中学校教科用図書の採択についてを、原案

のとおり決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認めます。議案第23号は原案のとおり可決されました。

では、図書の入替えをいたしますので、しばらくお待ちください。

(図書の入替え)

[米田教育長]

それでは、それでは、再開いたします。

議案第24号・日野市立小学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

事務局より提案理由の説明をお願いいたします。

○議案第24号 日野市立小学校教科用図書の選定について

[谷川教育部参事]

議案書3ページをお開きください。議案第24号・日野市立小学校教科用図書の採択についてご説明いたします。提案理由でございます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6項、義務教育小学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項、及び第14条、同法施行令第14条第1項及び第15条第1項の規定に基づき、令和3年度に日野市立小学校で使用する教科書を採択するものでございます。

次のページをお開きください。ここに記載する教科用図書について採択するものでございます。小学校におきましては、学習指導要領の下で編集、発行された教科用図書を令和元年度に採択しております。今回の提案は、義務教育小学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に、義務教育小学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとするのでありますので、今回、このような形で提案するものでございます。

なお、義務教育小学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条には、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は4年と規定されております。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

[米田教育長]

事務局からの説明が終了をいたしました。ご質問がございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。ご意見がございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

なければ、ご意見、ご質問はこれにて終結いたします。

お諮りいたします。議案第24号・日野市立小学校教科用図書採択についてを、原案のとおり決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認めます。議案第24号は原案のとおり可決されました。

図書の入替えを行います。しばらくお待ちください。

(図書の入替え)

[米田教育長]

では、次に、議案第25号・日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について、事務局より提案理由の説明をお願いします。

○議案第25号 日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について

[谷川教育部参事]

議案書5ページをお開きください。議案第25号・日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択についてでございます。提案理由でございます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育小学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項及び第14条、同法施行令第14条第1項及び第15条第1項、学校教育法附則第9条の規定に基づき、令和3年度に特別支援学級の児童・生徒が使用する教科用図書を採択するものでございます。

ただいま提案理由で申し上げましたとおり、特別支援学級教科用図書の採択につきましては、小・中学校の特別支援学級で特別の教育課程を編成している場合、学校教育法附則第9条、同法施行規則第139条の規定により、教科により当該学年用の文部科学省検定教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるとされております。

今回の採択におきましては、文部科学省検定教科書を選定している場合、小学校につきましては、令和元年度に採択をされ、令和5年度まで使用する教科用図書を使用し、中学校につきましては、今回の教育委員会定例会にて採択されました教科用図書を令和6年度まで使用することになります。このため、通常の学級で使用する教科用図書と同様の教科用図書を特別支援学級でも使用することになります。

今回の特別支援学級教科用図書の採択につきまして、文部科学省検定教科書、文部科学省著作教科書、及び学校教育法附則第9条に規定する一般図書から採択することとなります。

それでは、議案書39ページをお開きください。特別支援学級教科用図書採択資料、調査研究の趣旨についてでございます。枠囲みの中になります。ご説明させていただきます。

(1) 特別支援学級における教科用図書の調査研究についての欄をご覧ください。本年度5月25日に実施しました校長会で本年の採択におきまして説明を行い、令和2年6月16日付の文書にて、各学校に特別支援学級教科用図書の調査研究の依頼をいたしました。各学校において、教科用図書について調査研究を行い、特別支援学級設置校から6月29日までに教育委員会事務局に報告をいただいたところでございます。

次に、(2) 調査研究の基本的な考え方を御覧ください。次の3点が基本的な考え方でございます。第1に、児童・生徒の障害の種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容の図書であること、第2に、可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つ図書であること、第3に、学年進行に当たって、上の学年で使用するようになる教科書との関連性を考慮すること、この3点を踏まえて各学校では調査研究を行いました。

各学校の調査研究結果を一覧に整理したものが39ページの下段にございます。令和3

年度につきましては、各学校とも学年ごとで教科用図書を選択しておりますが、一部の学校、学年、教科については、児童・生徒の能力や特性などに合わせてふさわしい内容のものを選択しております。4行目の日野第八小学校の欄を御覧ください。各学年を単位として文部科学省検定教科書を選定し、一部、社会、理科、家庭、保健体育の教科においては一般図書を選定しております。

議案書の6ページから38ページにかけては、各学校で調査研究を行い、報告された資料となっております。各ページの図書名の前に表記されたマル検、マル文、マル市という表記がございますが、マル検は文部科学省検定教科書、マル文は文部科学省著作教科書、マル市は学校教育法附則第9条に規定された一般図書を表しております。

また、表の中にございますが、教科書記号番号について記載のあるものにつきましては、東京都教育委員会が調査研究を行った図書から選定をしております。空欄のものにつきましては、今年になり、東京都から「令和3年度用一般図書一覧」として図書の紹介がありましたので、その紹介された図書を学校が独自で調査研究を行い、選定したものでございます。

特別支援学級の教科用図書の選択といたしましては、学校教育法附則第9条に規定する一般図書から88冊、特別支援学校の小学部、中学部で使用する文部科学省著作教科書から2冊、文部科学省検定教科書から76冊を選定しており、それぞれの障害の種別、程度、個々の状況に応じて各学校から選定した報告がありました。

以上で、特別支援学級教科用図書の調査研究の経過、並びに採択に関する説明を終わります。ご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

[米田教育長]

事務局からの説明が終了いたしました。ご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

[高木委員]

今、説明いただいたわけですが、令和3年度から使用する教科書について、各学校からの調査研究の資料があるのですが、3年度についての何か学校からの内容について特徴があれば、教えていただきたいのですが。よろしくよろしくお願いいたします。

[田村統括指導主事]

統括指導主事でございます。各学校からの特徴ですが、特別支援学級の教科用図書については、児童・生徒一人一人の障害の状況、そして程度等に応じて採択することが大前提になっております。よって、毎年、若干の修正はございますが、特段、昨年度と大きく変わったところはないというふうに聞いております。

また、例えば学校教育法附則第9条に示されています一般図書につきましては、昨年度は87冊、今年度は88冊、文部科学省検定教科書につきましては、昨年度は75冊、今年度は76冊、文部科学省著作教科書につきましては、昨年度2冊、今年度も2冊になっております。数に関しても大きく変更されていないという点がございますので、学校のところも大きな変更等はないと考えております。

以上でございます。

[米田教育長]

ほかに質問はいかがですか。では、質問はよろしいでしょうか。

では、ご意見を伺います。ご意見、よろしいでしょうか。

なければ、ご質問、ご意見はこれにて終結いたします。

お諮りいたします。日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択についてを、原案のとおり決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認めます。議案第25号は原案のとおり可決されました。

ここで、議事の都合上、休憩をとります。5分とりたいと思います。18時30分から再開をしたいと思います。

休憩 18時25分

開始 18時30分

[米田教育長]

再開をいたします。

議案第26号・東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について、事務局より提案理由の説明をお願いいたします。

○議案第26号 東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について

[久保田学校課長]

学校課長でございます。議案第26号・東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について、ご説明申し上げます。恐れ入ります、議案書の41ページをお開きください。初めに提案理由でございます。日野市学校運営協議会規則第8条の規定に基づく委員の任命について、教育委員会にお諮りする時間的な余裕がございましたので、教育長専決により任命を行いましたので、ご報告し、ご承認を求めるものでございます。

次の42ページをご覧ください。新たに任命する委員につきまして表にまとめてございます。表の左から氏名、住所、備考、そして肩書でございます。この方につきましては、新規の任命となります。任期は記載のとおりでございます。なお、前PTA会長の速水亨氏は、引き続き協議会委員として委員の任に当たっていただきます。

説明は以上でございます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

[米田教育長]

事務局からの説明が終了いたしました。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

なければ、ご質問、ご意見はこれにて終結いたします。

お諮りいたします。東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分についてを、原案のとおり決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認めます。議案第26号は原案のとおり可決されました。

これより、議案第27号及び議案第28号、議案第29号の審議に入りますが、本件に

つきましては、公開しない会議といたします。異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[米田教育長]

異議なしと認めます。傍聴者の方、申し訳ありません。なお、本件の終了をもって、令和2年度第5回教育委員会定例会を閉会といたします。

(関係職員以外退室)

閉会 18時35分